



ブロードバンドルータユニット 取扱説明書

このたびは、ネットコミュニティシステム
alphaNX typeS/typeMブロードバンドルータユ
ニットをお買い求めいただきまして、まこと
にありがとうございます。

- ご使用前に、この「取扱説明書」をよく
お読みのうえ、内容を理解してからお使い
ください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなど
いつも手もとに置いてお使いください。







安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

- この取扱説明書は、ネットコミュニティシステム αNXシリーズの標準電話機を例として記載しており、本文中では、特に断りがない限り「内線電話機」という表現を用いております。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信、録音などの機会を逸したために生じた損害、または本商品に登録された情報内容の消失などにより生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いいたします。
- 本商品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な商品です。本商品内に登録または保持されたデータの流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に登録または保持されたデータを取扱説明書の消去方法（●P8）にしたがって消去願います。
- 本商品の設置工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事、修理は違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本商品の取り扱いについては、本書とともに必ず、ネットコミュニティシステム αNXシリーズの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
- 本商品の取り扱いについては、本書とともに必ず、ご使用のパソコンの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
- 商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
- 外部からの不正な（意図しない）アクセス等により、IP電話サービスおよびインターネットがご利用できなくなる場合があります。このような場合は弊社ホームページ等で最新のプログラムをその都度提供してまいりますので、対応内容をご確認のうえ、最新バージョンをご利用いただきますようお願いいたします。なおプログラムのバージョンアップに関しては「本商品のファームウェアを更新するには」（●P87）を参照してください。

* Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、Internet Explorer®は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

* その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

* なお、本文中に™、®マークは明記しておりません。

 **危険**

●蓄電池は密閉空間には設置しないでください。爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

●蓄電池は火気の近くには設置しないでください。爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

●蓄電池を使用する場合は、次のことを必ず守ってください。蓄電池の損傷により、火災・感電の原因となることがあります。

- ・電池のプラス端子とマイナス端子間を針金などの金属類で接続しない。
- ・火の中に投入したり、加熱しない。
- ・金属工具を使用する場合は、ビニールテープなどで絶縁したものを使用する。

●蓄電池を改造または分解しないでください。蓄電池の液もれ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。蓄電池の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●蓄電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

●蓄電池は定期的に交換してください。交換時期を過ぎて使用した場合、電槽の破損により漏電の原因となることがあります。蓄電池の交換については、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●蓄電池を単体では充電しないでください。蓄電池の液もれ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

設置について

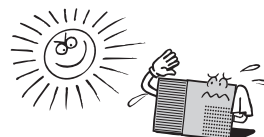
警告

- 主装置、電話機、モジュージャックや電話配線、LAN配線のそばに、水や液体の入った花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。主装置、電話機、モジュージャックや電話配線、LAN配線に水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。



- 主装置、電話機、モジュージャックや電話配線、LAN配線は次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近くや屋外などの温度の上がる場所。
- 調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所。
- 湿気の多い場所や水・油・薬品などのかかる恐れがある場所。
- ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
- 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。



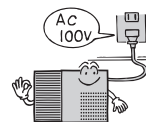
- 主装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、主装置の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。次のような設置のしかたはしないでください。

- 主装置を仰向けや横倒し、逆さまにする。
- 主装置を収納棚や本箱、配線ボックスなどの風通しの悪い狭い場所に押し込む。
- 主装置をじゅうたんや布団の上に置く。
- 主装置にテーブルクロスなどをかける。
- 主装置の周りに物をおいて、通風孔をふさぐ。

お取り扱いについて

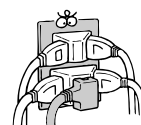


- 電源は、AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 電源プラグは電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、火災・感電の原因となります。

- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。また、主装置の誤動作の原因となることもあります。



- お客様による主装置の設置工事、配線作業、修理、移動などは危険ですから絶対におやめください。主装置の設置工事、配線作業、修理、移動などを行うときは、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

- 万一、主装置内部のヒューズ切れなどにより使用不可となった場合は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。お客様によるヒューズの交換は絶対に行わないでください。火災・感電の原因となります。

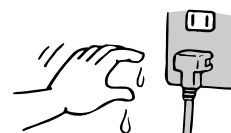
- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認し、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- 万一、主装置を倒したり、主装置キャビネットを破損した場合、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 主装置や電話機から異常音がしたり、主装置キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に点検をご依頼ください。



- お客様による主装置の電源コード、電話機までの配線およびLAN配線の移動、取り外し、また、電話機の取り外しなどは、火災・感電の原因となります。必ず当社のサービス取扱所にご依頼ください。

- 主装置、電話機、モジュラージャックや電話配線、LAN配線に水をかけたり、ぬれた手で操作や電源プラグ、電話機コードやLANケーブルのモジュラープラグの抜き差しをしないでください。火災・感電の原因となります。



安全にお使いいただくために必ずお読みください

警告

- 主装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 万一、主装置内部、電話機、モジュージャックや電話配線、LAN配線に水などの液体が入った場合、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。また、電話機コードやLANケーブルのモジュラープラグが、ぬれた場合は、乾いても使用しないでください。
- 主装置や電話機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください（分解、改造された主装置や電話機は修理に応じられない場合があります）。
- 主装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください。
- 主装置の電源コード、電話機までの配線およびLAN配線などを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりするとコードおよび配線が破損し、火災・感電の原因となることがあります。コードおよび配線が傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- 主装置の電源コード、電話機までの配線およびLAN配線などが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。
- 近くに雷が発生したときは、すぐに電源プラグを電源コンセントから抜き、主装置の電源スイッチを切って、ご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。
- 主装置、電話機、モジュージャックや電話配線、LAN配線、電源コード類を熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コード類の被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。
- 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

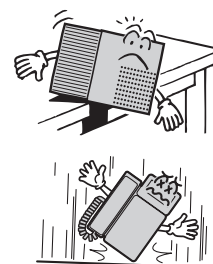
⚠ 警告

- お客様が用意された機器を主装置および電話機に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所にご確認ください。確認できない場合は絶対に接続してお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

設置について

⚠ 注意

- 主装置や電話機は次のような場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
 - ・ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所。
 - ・振動、衝撃の多い場所。



- 主装置や電話機を床面設置する場合や壁掛け設置する場合は、専用の取り付け用品によりしっかりと固定設置してください。固定が不十分な場合、落下、転倒の原因となることがあります。
- 屋外に渡る配線は行わないでください。特に、建物から建物へ空中を通す配線は雷などによる故障の原因となることがあります。

お取り扱いについて

⚠ 注意

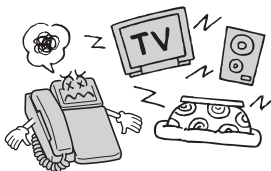
- 主装置や電話機の上に重い物をのせないでください。バランスがくずれて落下やけがの原因となることがあります。
- 主装置や電話機に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。
- 本商品を長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 主装置は高度な技術によって構成された精密機器です。より安心して使用していただくためには、当社の定期点検をお受けすることをお勧めします。詳しくは、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

設置について

STOP お願い

- 主装置や電話機を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。
 - ・磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
 - ・テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
 - ・放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、電話機などの設置場所を移動してみてください。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、主装置や電話機などの寿命が短くなることがあります。



お取り扱いについて

STOP お願い

- 主装置や電話機などをベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。主装置や電話機などの変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。ただし、電話配線／LAN配線のモジュラージャック部分は、よくしぼった場合でも、中性洗剤をつけた布では絶対にふかないでください。
- 停電中に主装置の電源スイッチを切らないでください。停電復旧時に使用できなくなります。
- 停電のときは、停電用電話機を使用してください。
 - ・他の内線電話機は使えません。
 - ・ドアホンは使えません。
 - ・発信電話番号表示機能は使えません。
- ナンバー・ディスプレイや発信者番号表示のご利用に際しては、総務省の定める「発信者情報サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。



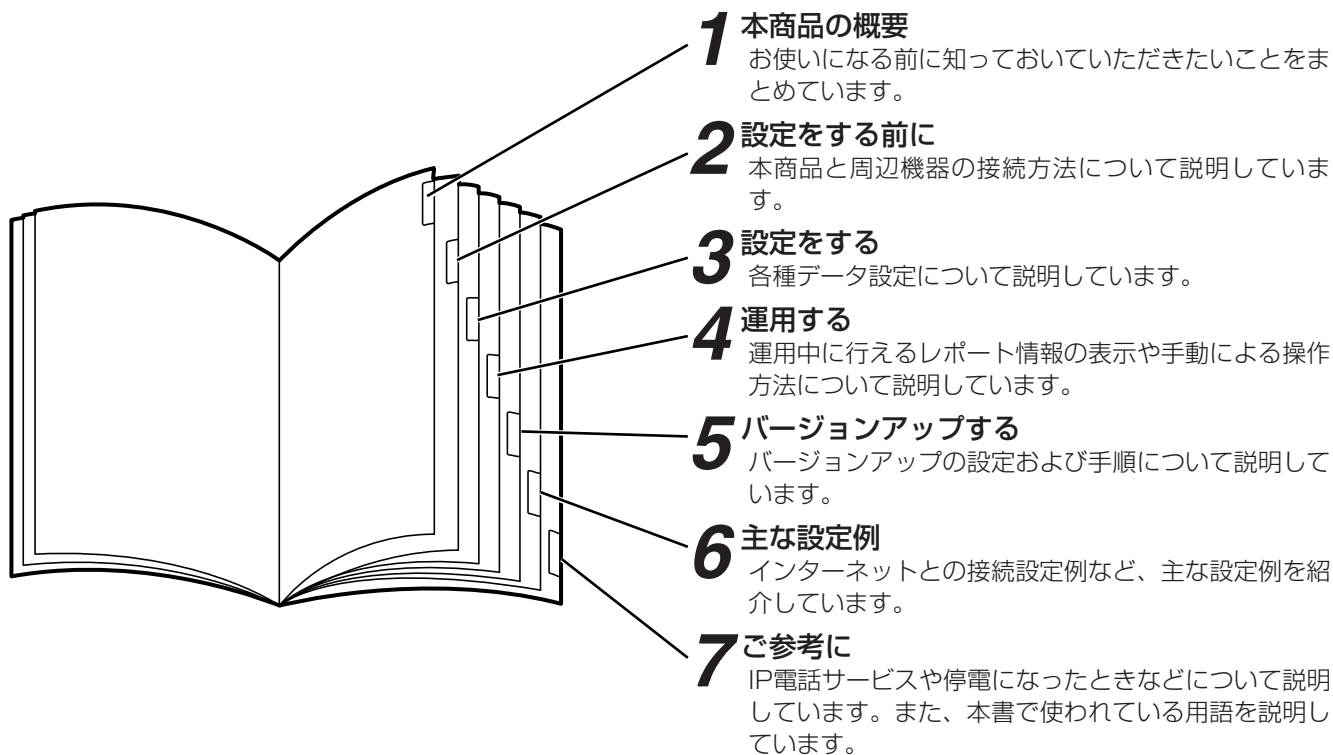
廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意

本商品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な商品です。本商品内に登録または保持されたデータの流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に登録または保持されたデータを下表にしたがって消去または当社のサービス取扱所にご相談ください。

記録内容	処置（取扱説明書参照ページ）
すべての設定データ	P80を参照し、本商品を初期化してください。

この取扱説明書の見方

この取扱説明書の構成



操作説明ページの構成

章タイトル

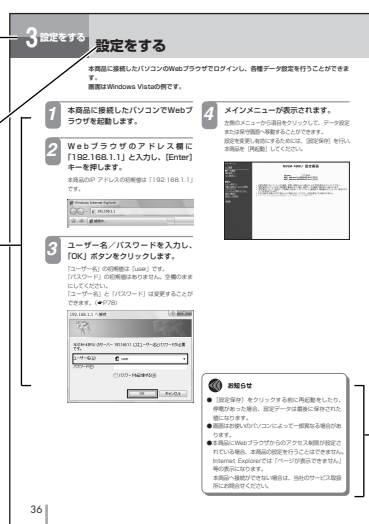
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。

操作手順説明

順番に操作を説明しています。



ワンポイント／お願い／お知らせ 〈ワンポイント〉

知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足をしています。

〈お願い〉

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

〈お知らせ〉

この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

目次

安全にお使いいただくために必ずお読みください	2
この取扱説明書の見方	9
目次	10

1 本商品の概要

特長	11
利用例	12
インターネット接続および	
ひかり電話サービスの利用例	12

2 設定をする前に

設定の流れ	14
パソコンの設定 (Windows 7の場合)	15
インターネットプロパティの設定	15
ネットワークの設定	17
ネットワークの設定を確認する	20
パソコンの設定 (Windows Vistaの場合)	21
インターネットプロパティの設定	21
ネットワークの設定	23
ネットワークの設定を確認する	26
パソコンの設定 (Windows XPの場合)	27
インターネットプロパティの設定	27
ネットワークの設定	29
ネットワークの設定を確認する	32
Webブラウザの設定	33

3 設定をする

設定をする	35
設定方法について	35
ネットワーク設定	37
リンク設定	37
LANインタフェース設定	38
WANインタフェース設定	40
UPnP設定	45
ブリッジ設定	46
アドレス変換設定	48
ルーティング設定	54
フィルタリング設定	60
DHCPサーバ設定	66
DHCPサーバ設定	66
固定割り付けテーブル設定	68
DNS設定	72
ProxyDNS設定	72
ホストテーブル設定	74

ユーザ用アカウントを設定するには	78
設定一覧表示を行うには	79
設定データを初期化するには	80

4 運用する

運用方法について	81
運用時に利用できる操作	81
WAN/VoIPの起動・停止を行うには	82
レポート表示を行うには	83
再起動を行うには	86

5 バージョンアップする

本商品のファームウェアを更新するには	87
自動ファームウェア更新の設定をする	88
Webブラウザから手動で更新する	90
ローカルでファームウェアを更新する	92

6 主な設定例

フレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/ フレッツ・光プレミアム/ フレッツ・ADSL接続設定例	94
インターネットとフレッツ・スクウェア ネットを 同時に利用する設定例	96
インターネットとフレッツ・スクウェアを 同時に利用する設定例	98
ブリッジ機能を使用してフレッツ・スクウェア またはフレッツ・スクウェア ネットを 利用する設定例	100
フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) / フレッツ・グループ (NTT西日本) 利用時の設定例	102
擬似的なDMZの設定例	105
DHCPサーバ機能によるIPアドレスの 自動割り付け設定例	107

7 ご参考に

IP電話サービスについて	108
停電になったときは	109
故障かな?と思ったら	110
用語の説明	111
索引	115
仕様	117
保守サービスのご案内	118

本商品は、ネットコミュニティシステム αNX typeS/typeM用ブロードバンドルータユニットです。次のような特長があります。

フレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/フレッツ・光プレミアム/フレッツ・ADSL接続機能

回線終端装置 (ONU)、加入者網終端装置 (CTU)、またはADSLモデムと接続し、PPPoEによりフレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/フレッツ・光プレミアム/フレッツ・ADSLを利用することができます。

ギガビットEthernet 対応

本商品のLAN/WANインタフェースがギガビットEthernet に対応しており、PPPoE/IPV6ブリッジのスループットは最大1Gbps を提供可能です。

アドレス割り付け (DHCP)

- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) クライアント機能を持つ端末に、動的にIPアドレス、DNSサーバアドレス、ゲートウェイアドレスなどの割り付けを行うことができます。
- ネットワーク内のIPアドレス管理ができ、端末の設定を簡単に行えます。
- 端末ごとに登録されたIPアドレスを静的に割り付けることもできます。

IP電話サービス

ひかり電話網、050IP電話網などを利用して、内線電話機からひかり電話/050IP電話/システム間接続サービスを同時に利用することができます。
※本書記載の「050IP電話」とは、050番号を利用するIP電話サービスのことです。

最新のファームウェアに自動的にバージョンアップ

最新のファームウェアに自動的にバージョンアップしたり、最新のファームウェアがあることをお客様へ通知することができます。

ルーティング機能

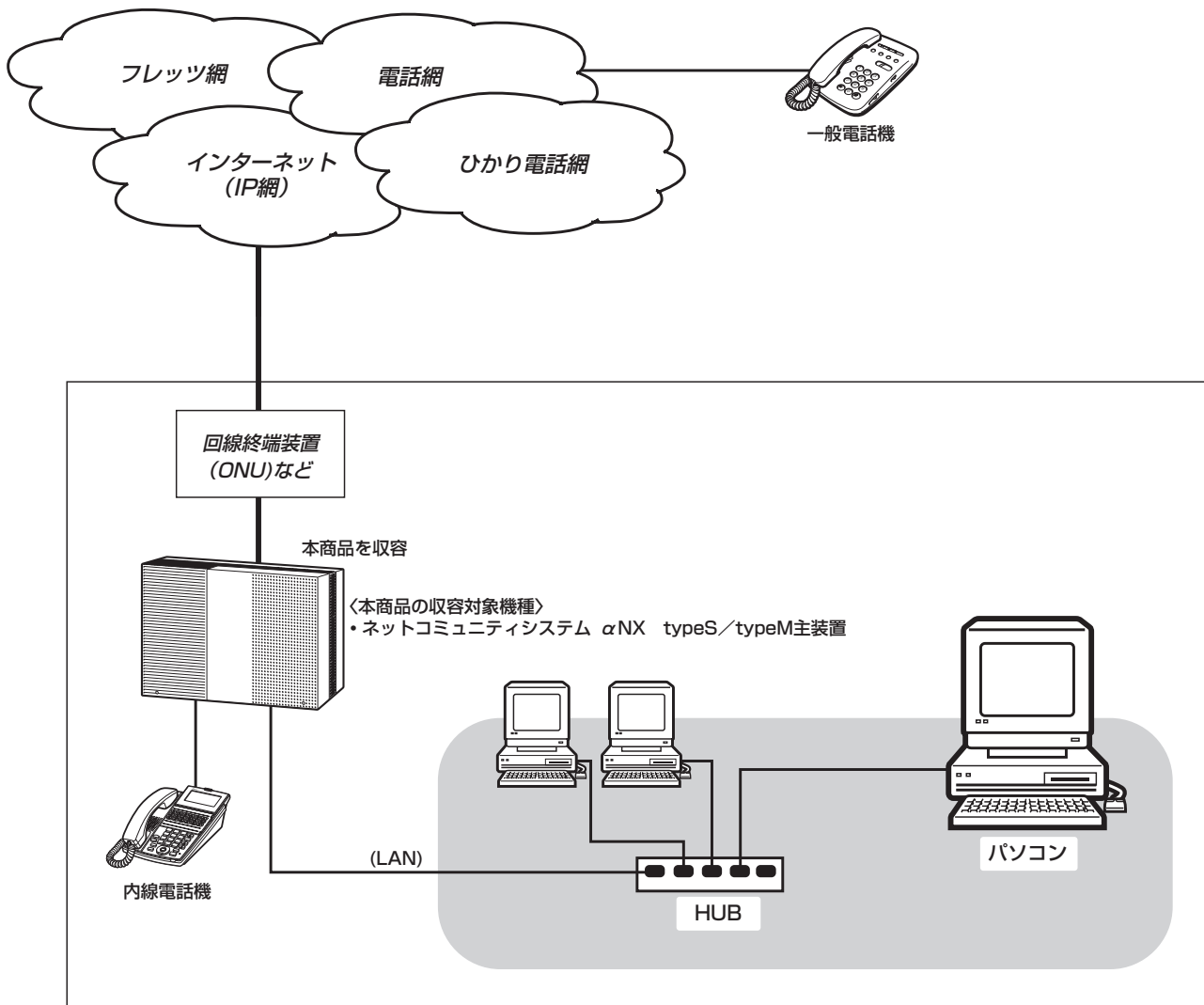
ルーティング機能として、スタティックIPルーティング/ソースルーティング/ドメインルーティングと、ルーティングプロトコル (RIP) を使用したダイナミックルーティングをサポートしています。

IPアドレス変換機能

- NATの独自拡張により、ローカルLANのIPアドレスからグローバルIPアドレスへの変換を行います。
- IPアドレスの変換を行うことにより、ローカルLANを隠ぺいすることができるので、セキュリティ効果が得られます。

インターネット接続およびひかり電話サービスの利用例

- インターネット（IP網）を利用したインターネット接続機能とひかり電話網を利用した音声通話機能を同時に利用することが可能です。
- 回線終端装置（ONU）、加入者網終端装置（CTU）とLAN接続し、PPPoEによりフレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/フレッツ・光プレミアムを利用可能です。





お知らせ

- フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・光プレミアムをご利用の場合、お住まいの地域がフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・光プレミアムの対象地域になっている必要があります。
また、当社へのフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・光プレミアム回線のお申し込みと、フレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・光プレミアムに対応したサービスプロバイダへのインターネット接続サービスのお申し込みが必要となります。
- ひかり電話をご利用の場合、お住まいの地域がひかり電話の対象地域になっている必要があります。
また、当社へのフレッツ 光ネクスト／Bフレッツ／フレッツ・光プレミアム回線のお申し込みと、ひかり電話のお申し込みが必要となります。
- 回線の状態により、データ転送のスループットが落ちる場合があります。
- IP電話サービスを提供しているプロバイダ等との契約が必要です。

設定の流れ

本商品を設定および運用する場合は、パソコン側で以下の準備が必要です。

本商品とパソコンをLAN接続する

※本商品とパソコンをLAN接続するには、設置工事が別途必要になります

αNX主装置の電源が入っていることを確認する

※αNX主装置の電源が入っていない場合は、電源を入れてください

パソコンの電源を入れる

パソコンを設定する

Windows 7の場合 (☞P15)

Windows Vistaの場合 (☞P21)

Windows XPの場合 (☞P27)

Webブラウザを設定する (☞P33)

本商品を設定する (☞P35)

※Windows 7は、Windows 7 Starter、Windows 7 Home Premium、Windows 7 Professional、Windows 7 Enterprise およびWindows 7 Ultimate の各日本語版かつ32ビット (x86) 版の略です。

※Windows Vistaは、Windows Vista Home Basic、Windows Vista Home Premium、Windows Vista Business およびWindows Vista Ultimate の各日本語版かつ32ビット (x86) 版の略です。

※Windows XPは、Windows XP Home Edition operating system およびWindows XP Professional operating system の略です。

Windows 7の場合は、下記の手順に従ってパソコンを設定します。設定後は「Webブラウザの設定」に進んでください。(●P33)
本書ではWindows 7の通常の画面イメージで説明しています。お使いになっているパソコンによっては表示が異なる場合があります。

インターネットプロパティの設定

これまで通常モデムと加入電話回線を使ってインターネットに接続していた場合は、下記の方法でインターネットの接続を設定してください。

これまでADSLもしくはBフレッツ接続などでインターネットに接続していた場合は、「ネットワークの設定」(●P17)に進んでください。

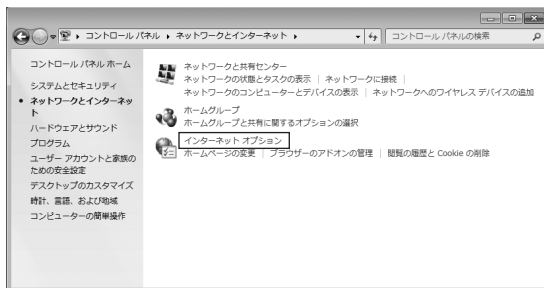
1 コントロールパネルを表示する。

Windows 7を起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



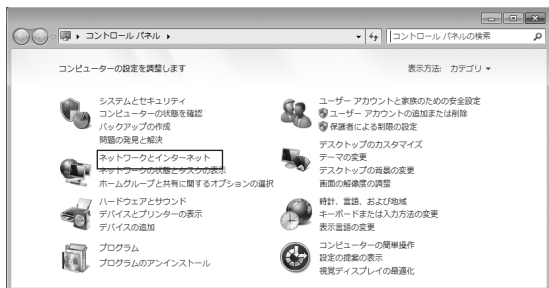
3 「インターネットオプション」を表示する。

「インターネットオプション」をクリックします。



2 「ネットワークとインターネット」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークとインターネット」をクリックします。



お知らせ

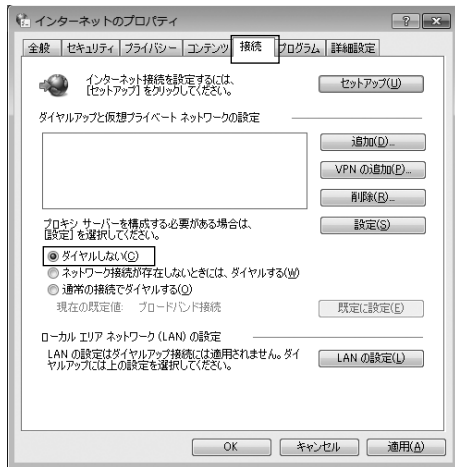
- Windows 7ではスタートメニューの表示モードに「スタート」メニューとクラシック「スタート」メニューがあります。この取扱説明書の画面では「スタート」メニューを例に記述しています。
- Windows 7ではコントロールパネルの表示モードにホームモード(カテゴリ表示モード)とクラシック表示モードがあります。この取扱説明書の画面ではホームモードを例に記述しています。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- 「フレッツ接続ツール」を使用する必要はありません。
- Internet Explorerを初めて起動したとき、「インターネットへの接続」というダイアログが起動することがあります。この場合は「キャンセル」をクリックして、ダイアログをいったん終了してください。
- ISDN回線でインターネットに接続していた場合は、当社のサービス取扱所までお問い合わせください。
- この取扱説明書に記載の画面の一部に不鮮明な箇所があります。これは特定の製品名などの表示を避けるためです。

4 「接続」タブで「ダイヤルしない」を選択する。

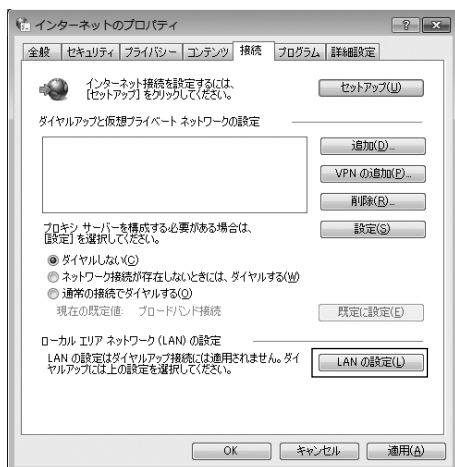
「インターネットのプロパティ」の「接続」タブをクリックします。

「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。

「ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする」や「通常の接続でダイヤルする」が選択されている場合は、「ダイヤルしない」をクリックします。



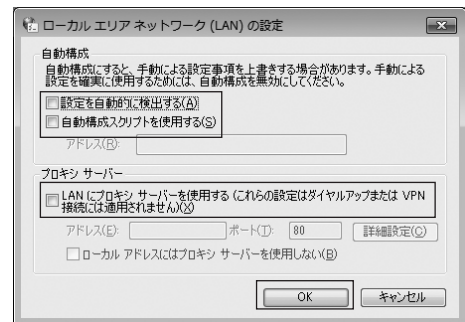
5 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」の「LAN の設定」をクリックする。



6 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」を設定する。

次のように設定します。

- ① 「自動構成」のチェックを外す
「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、すべてのチェックを外してください。
- ② 「プロキシサーバー」のチェックを外す
「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、チェックを外し、「OK」をクリックしてください。



お知らせ

- いずれにもチェックがついていないことを確認してください。

- ③ 最後に「インターネットのプロパティ」の「OK」をクリックする
「インターネットのプロパティ」の設定はこれで終了です。

ネットワークの設定

LANカードの取り付けとドライバのインストールは、ご利用機器メーカーのインストール指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

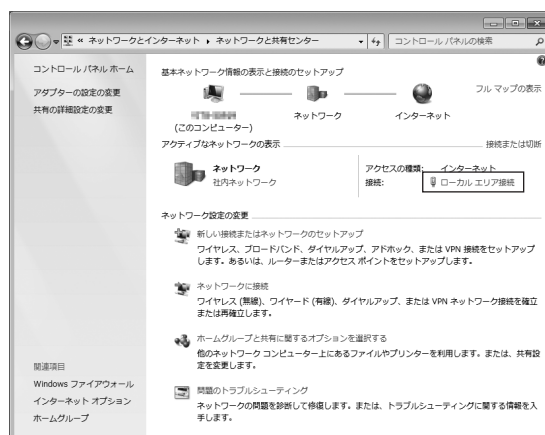
1 コントロールパネルを表示する。

Windows 7を起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



3 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「ローカルエリア接続」をクリックします。



2 「ネットワークと共有センター」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。



ワンポイント

- 「ネットワーク接続」にPPPoE設定がされていて、その設定が既定の接続に設定されている場合には、PPPoEのアイコンを右クリックして、表示されるサブメニューの「既定の接続を解除」を選択し、クリックしてください。



1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップ

6 主な設定例

7 ご参考に

4 「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示する。

「ローカルエリア接続の状態」の「プロパティ」をクリックします。



5 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」を表示する。

「ローカルエリア接続のプロパティ」の一覧から「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

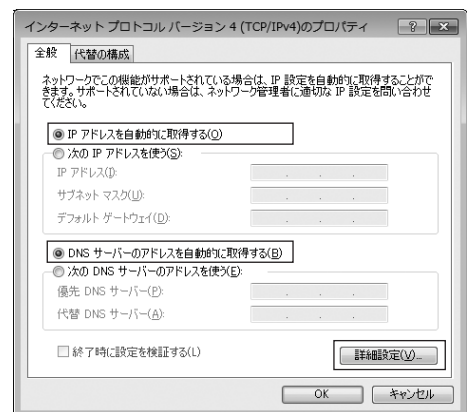


※ 一覧に表示されているチェックは外さないでください。

6 IPアドレスとDNSを設定する。

「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」の「IP アドレスを自動的に取得する」と、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

IP アドレスとDNS の設定を確認したら「詳細設定」をクリックします。



7 DHCP 設定を確認し、[OK] をクリックする。

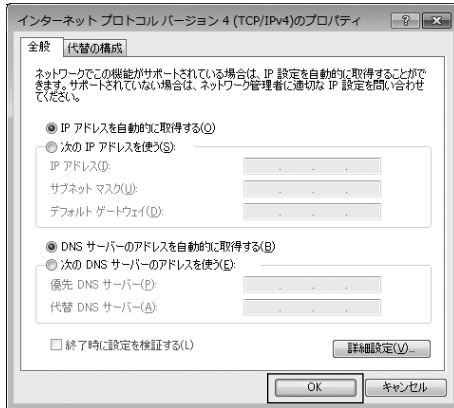
「TCP/IP 詳細設定」の「IP 設定」タブをクリックして、一覧に「DHCP 有効」と表示されているか確認します。



ワンポイント

- 「DHCP 有効」となっていない場合、手順6の画面で「IP アドレスを自動的に取得する」と、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してあるか、再度確認してください。

- 8 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」の [OK] をクリックする。



- 9 「ローカルエリア接続のプロパティ」の [閉じる] をクリックする。

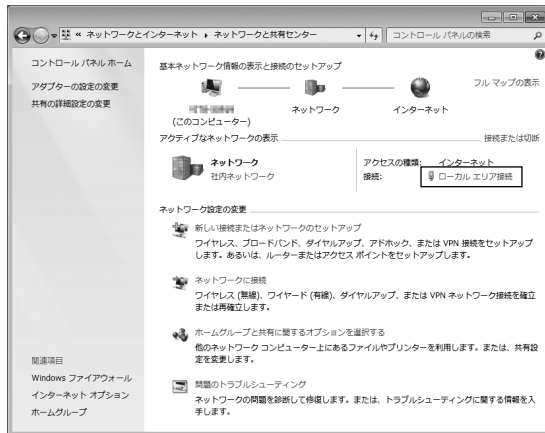
- 10 「ローカルエリア接続の状態」の [閉じる] をクリックする。

ネットワークの設定を確認する

パソコン (LANカード) と本商品が正しく接続・設定されているか確認する場合、Windows 7では次の手順で確認します。

1 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「ネットワークの設定」の手順1~3を行います。
(P17)



2 「ローカルエリア接続の状態」で「詳細」をクリックする。

[詳細] をクリックします。

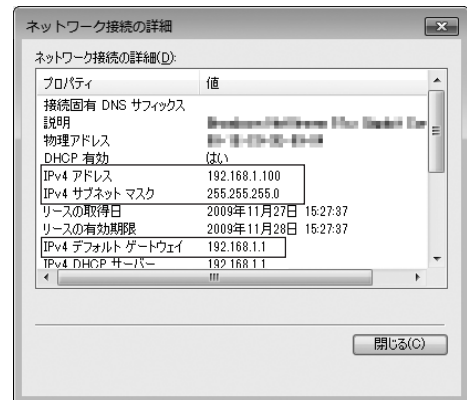


3 IP アドレスを確認する。

以下の箇所に設定が反映されたことを確認します。

- ・IPv4 IP アドレス
- ・IPv4 サブネットマスク
- ・IPv4 デフォルトゲートウェイ

これらのアドレスはすべて自動で設定されます。



ワンポイント

- 各情報が正常に設定されていない場合は、パソコンと本商品の電源を切ってから電源やケーブルなどの接続を確認し、本商品の電源を入れてからパソコンの電源を入れ、手順1 からやり直してください。

4 「閉じる」をクリックする。

Windows Vistaの場合は、下記の手順に従ってパソコンを設定します。設定後は「Webブラウザの設定」に進んでください。(●P33)

本書ではWindows Vistaの通常の画面イメージで説明しています。お使いになっているパソコンによっては表示が異なる場合があります。

インターネットプロパティの設定

これまで通常モデムと加入電話回線を使ってインターネットに接続していた場合は、下記の方法でインターネットの接続を設定してください。

これまでADSLもしくはBフレッツ接続などでインターネットに接続していた場合は、「ネットワークの設定」(●P23)に進んでください。

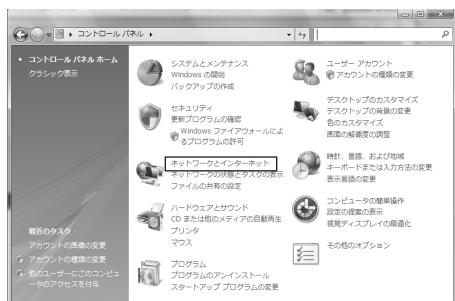
1 コントロールパネルを表示する。

Windows Vistaを起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



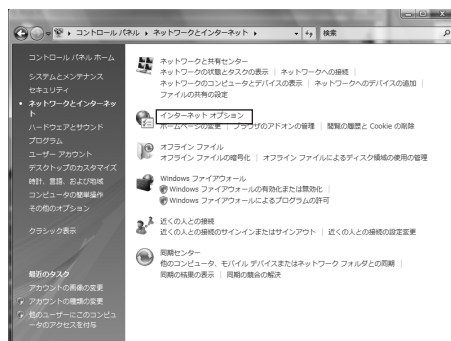
2 「ネットワークとインターネット」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークとインターネット」をクリックします。



3 「インターネットオプション」を表示する。

「インターネットオプション」をクリックします。



お知らせ

- Windows Vistaではスタートメニューの表示モードに [スタート] メニューとクラシック [スタート] メニューがあります。この取扱説明書の画面では [スタート] メニューを例に記述しています。
- Windows Vistaではコントロールパネルの表示モードにホームモード (カテゴリ表示モード) とクラシック表示モードがあります。この取扱説明書の画面ではホームモードを例に記述しています。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- 「フレッツ接続ツール」を使用する必要はありません。
- Internet Explorerを初めて起動したとき、「インターネットへの接続」というダイアログが起動することがあります。この場合は [キャンセル] をクリックして、ダイアログをいったん終了してください。
- ISDN 回線でインターネットに接続していた場合は、当社のサービス取扱所までお問い合わせください。
- この取扱説明書には、特定の製品名などの表示を避けるため、画面の一部に不鮮明な箇所があります。

4 「接続」タブで「ダイヤルしない」を選択する。

「インターネットのプロパティ」の「接続」タブをクリックします。

「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。

[ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする] や [通常の接続でダイヤルする] が選択されている場合は、[ダイヤルしない] をクリックします。



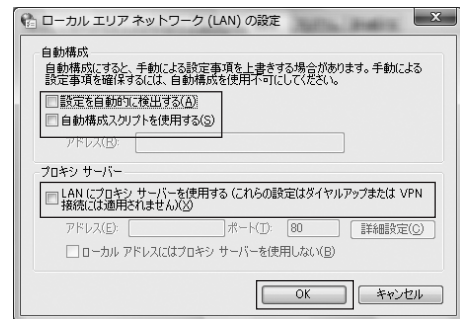
5 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」の「LAN の設定」をクリックする。



6 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」を設定する。

次のように設定します。

- ① 「自動構成」のチェックを外す
「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、すべてのチェックを外してください。
- ② 「プロキシサーバー」のチェックを外す
「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、チェックを外し、[OK] をクリックしてください。



お知らせ

- いずれにもチェックがついていないことを確認してください。

- ③ 最後に「インターネットのプロパティ」の [OK] をクリックする
「インターネットのプロパティ」の設定はこれで終了です。

ネットワークの設定

LAN カードの取り付けとドライバのインストールは、ご利用機器メーカーのインストール指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

1 コントロールパネルを表示する。

Windows Vistaを起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



2 「ネットワークと共有センター」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。



3 「ネットワーク接続」を表示する。

「ネットワーク接続の管理」をクリックします。



4 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「LAN または高速インターネット」内の「ローカルエリア接続」をダブルクリックします。



ワンポイント

- 「ネットワーク接続」の「ブロードバンド」の欄に、PPPoE 設定がされていて、その設定が既定の接続に設定されている場合には、PPPoE のアイコンを右クリックして、表示されるサブメニューの「既定の接続を解除」を選択し、クリックしてください（下図の例では、「マイISP」となっています）。



1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップ

6 主な設定例

7 ご参考に

5 「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示する。

「ローカルエリア接続の状態」の「プロパティ」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されるので、「続行」をクリックします。



6 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」を表示する。

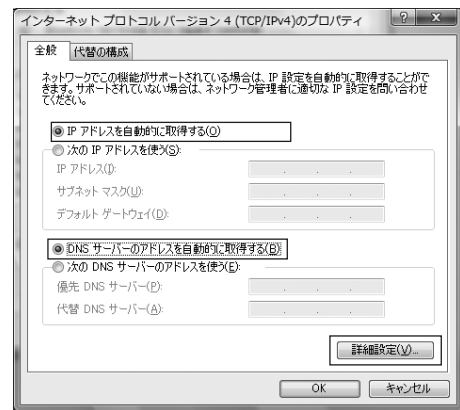
「ローカルエリア接続のプロパティ」の一覧から「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。



※ 一覧に表示されているチェックは外さないでください。

7 IPアドレスとDNSを設定する。

「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」の「IP アドレスを自動的に取得する」と、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。
IP アドレスとDNS の設定を確認したら「詳細設定」をクリックします。



8 DHCP 設定を確認し、[OK] をクリックする。

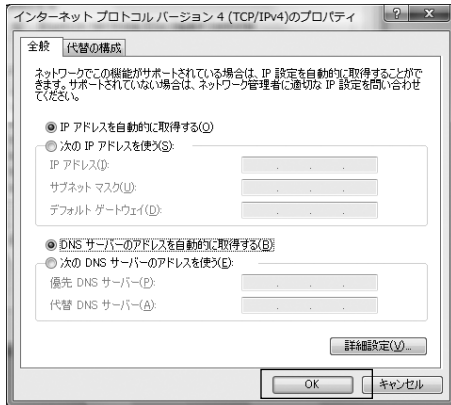
「TCP/IP 詳細設定」の「IP 設定」タブをクリックして、一覧に「DHCP 有効」と表示されているか確認します。



ワンポイント

- 「DHCP 有効」となっていない場合、手順7 の画面で「IP アドレスを自動的に取得する」と、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してあるか、再度確認してください。

- 9 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ」の [OK] をクリックする。



- 10 「ローカルエリア接続のプロパティ」の [閉じる] をクリックする。

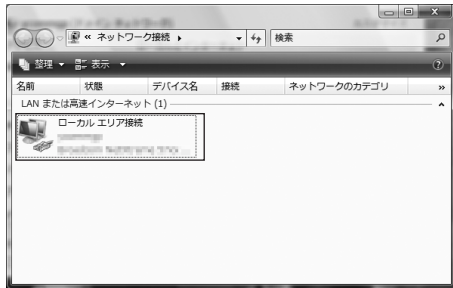
- 11 「ローカルエリア接続の状態」の [閉じる] をクリックする。

ネットワークの設定を確認する

パソコン (LANカード) と本商品が正しく接続・設定されているか確認する場合、Windows Vistaでは次の手順で確認します。

1 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「ネットワークの設定」の手順1~4を行います。
(P23)



2 「ローカルエリア接続の状態」で「詳細」をクリックする。

[詳細] をクリックします。



3 IP アドレスを確認する。

以下の箇所に設定が反映されたことを確認します。

- ・IPv4 IP アドレス
- ・IPv4 サブネットマスク
- ・IPv4 デフォルトゲートウェイ

これらのアドレスはすべて自動で設定されます。



ワンポイント

- 各情報が正常に設定されていない場合は、パソコンと本商品の電源を切ってから電源やケーブルなどの接続を確認し、本商品の電源を入れてからパソコンの電源を入れ、手順1 からやり直してください。

4 「ネットワーク接続の詳細」の「閉じる」をクリックする。

5 「ローカルエリア接続の状態」の「閉じる」をクリックする。

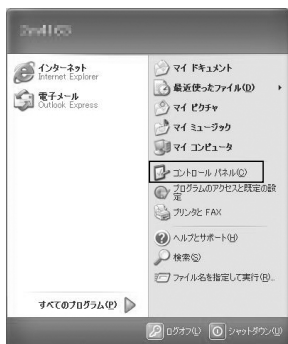
Windows XPの場合は、下記の手順に従ってパソコンを設定します。設定後は「Webブラウザの設定」に進んでください。(P33)
本書ではWindows XPの通常の画面イメージで説明しています。お使いになっているパソコンによっては表示が異なる場合があります。

インターネットプロパティの設定

これまで通常モデムと加入電話回線を使ってインターネットに接続していた場合は、下記の方法でインターネットの接続を設定してください。
これまでADSLもしくはBフレッツ接続などでインターネットに接続していた場合は、「ネットワークの設定」(P29)に進んでください。

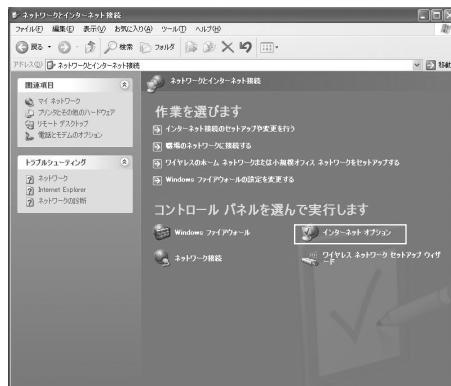
1 コントロールパネルを表示する。

Windows XPを起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



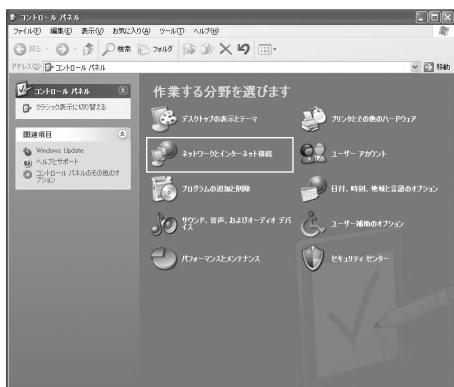
3 「インターネットオプション」を表示する。

「ネットワークとインターネット接続」の「インターネットオプション」をクリックします。



2 「ネットワークとインターネット接続」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



お知らせ

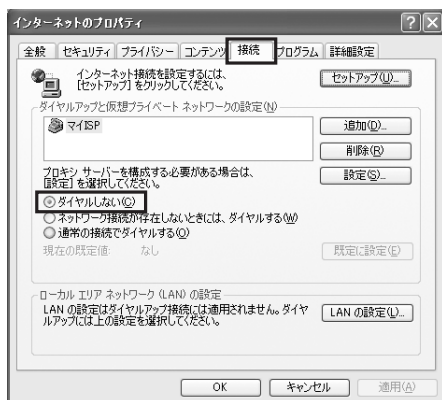
- Windows XPではスタートメニューの表示モードに「スタート」メニューとクラシック「スタート」メニューがあります。この取扱説明書の画面では「スタート」メニューを例に記述しています。
- Windows XPではコントロールパネルの表示モードに通常表示モード(カテゴリ表示モード)とクラシック表示モードがあります。この取扱説明書の画面では通常表示モードを例に記述しています。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- 「フレッツ接続ツール」を使用する必要はありません。
- Internet Explorerを初めて起動したとき、「インターネット接続ウィザード」というダイアログが起動することがあります。この場合は「キャンセル」をクリックして、ウィザードをいったん終了してください。
- ISDN回線でインターネットに接続していた場合は、当社のサービス取扱所までお問い合わせください。
- この取扱説明書には、特定の製品名などの表示を避けるため、画面の一部に不鮮明な箇所があります。

4 [接続] タブで [ダイヤルしない] を選択する。

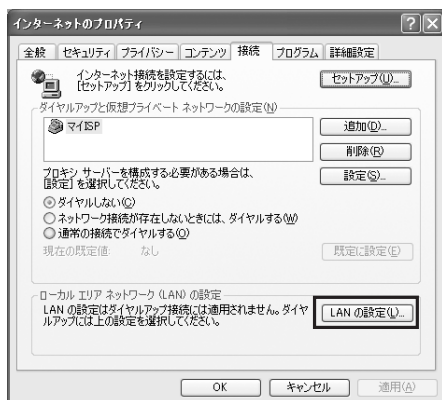
「インターネットのプロパティ」の「接続」タブをクリックします。

「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。

[ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする] や [通常の接続でダイヤルする] が選択されている場合は、[ダイヤルしない] をクリックします。



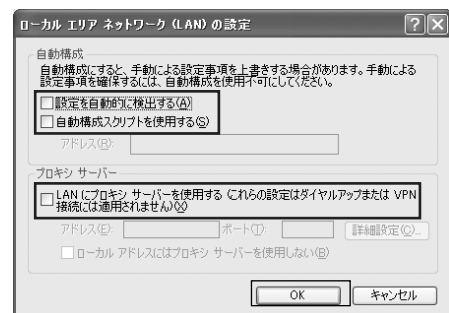
5 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」の [LAN の設定] をクリックする。



6 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」を設定する。

次のように設定します。

- ① 「自動構成」のチェックを外す
「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、すべてのチェックを外してください。
- ② 「プロキシサーバー」のチェックを外す
「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックがついていないことを確認してください。
チェックがついている場合は、チェックを外し、[OK] をクリックしてください。



お知らせ

- いずれにもチェックがついていないことを確認してください。

- ③ 最後に「インターネットのプロパティ」の [OK] をクリックする
「インターネットのプロパティ」の設定はこれで終了です。

ネットワークの設定

LAN カードの取り付けとドライバのインストールは、ご利用機器メーカーのインストール指示に従い、あらかじめ行っておいてください。

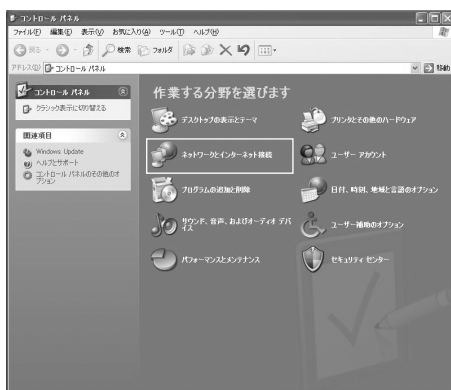
1 コントロールパネルを表示する。

Windows XPを起動し、「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックします。



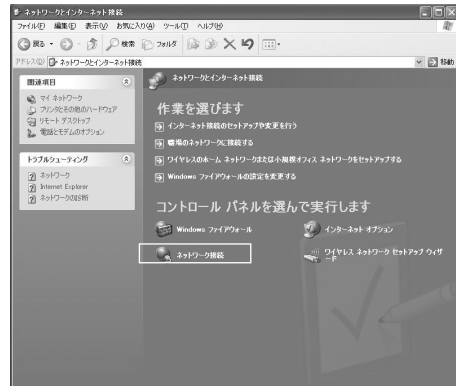
2 「ネットワークとインターネット接続」を表示する。

コントロールパネルの「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



3 「ネットワーク接続」を表示する。

「ネットワークとインターネット接続」の「ネットワーク接続」をクリックします。



4 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「LAN または高速インターネット」内の「ローカルエリア接続」をダブルクリックします。



ワンポイント

- 「ネットワーク接続」の「広帯域」の欄に、PPPoE 設定がされていて、その設定が既定の接続に設定されている場合には、PPPoE のアイコンを右クリックして、表示されるサブメニューの「既定の接続を解除」を選択し、クリックしてください（下図の例では、「マイISP」となっています）。



5 「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示する。

「ローカルエリア接続の状態」の「プロパティ」をクリックします。



6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」を表示する。

「ローカルエリア接続のプロパティ」の一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

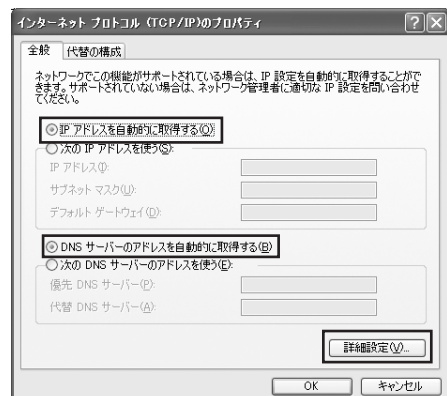


※ 一覧に表示されているチェックは外さないください。

7 IP アドレスとDNS を設定する。

「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」の「IPアドレスを自動的に取得する」と、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

IPアドレスとDNS の設定を確認したら「詳細設定」をクリックします。



8 DHCP 設定を確認し、[OK] をクリックする。

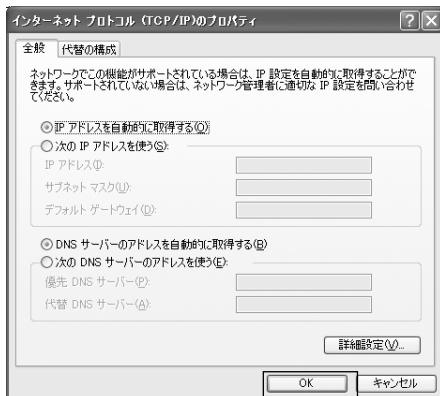
「TCP/IP 詳細設定」の「IP 設定」タブをクリックして、一覧に「DHCP 有効」と表示されているか確認します。



ワンポイント

- 「DHCP 有効」となっていない場合、手順7の画面で「IP アドレスを自動的に取得する」と、「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してあるか、再度確認してください。

9 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」の [OK] をクリックする。



10 「ローカルエリア接続のプロパティ」の [閉じる] をクリックする。

11 「ローカルエリア接続の状態」の [閉じる] をクリックする。

ネットワークの設定を確認する

パソコン (LAN カード) と本商品が正しく接続・設定されているか確認する場合、Windows XPでは次の手順で確認します。

1 「ローカルエリア接続の状態」を表示する。

「ネットワークの設定」の手順1 ~ 4 を行います。
(☛P29~30)



2 [サポート] タブで「接続状態」を確認する。

「ローカルエリア接続の状態」の [サポート] タブをクリックします。

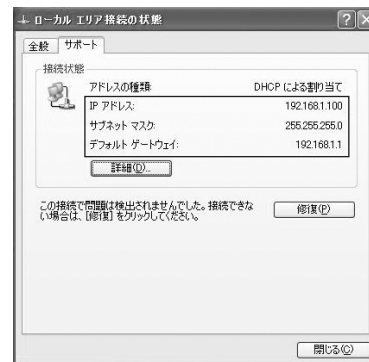


3 IP アドレスを確認する。

以下の箇所に設定が反映されたことを確認します。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ

これらのアドレスはすべて自動で設定されます。



ワンポイント

- 各情報が正常に設定されていない場合は、パソコンと本商品の電源を切ってから電源やケーブルなどの接続を確認し、本商品の電源を入れてからパソコンの電源を入れ、手順1からやり直してください。
- [修復] をクリックしても各情報が正常に設定されていない場合は、パソコンと本商品の電源を切ってから電源やケーブルなどの接続を確認し、本商品の電源を入れてからパソコンの電源を入れ、手順1からやり直してください。

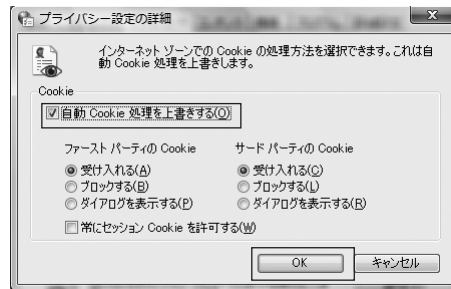
4 「ローカルエリア接続の状態」の「閉じる」をクリックする。

Webブラウザの設定

本商品は、各種の設定をWebブラウザで実施します。Windows 7ではInternet Explorer8.0、Windows Vista (SP2) ではInternet Explorer7.0または8.0、Windows XP Home/Professional (SP3) ではInternet Explorer6.0 (SP3)、7.0または8.0がインストールされていることを確認してください。画面はWindows Vistaの例です。

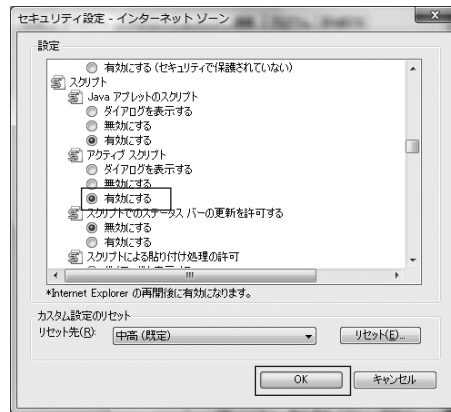
< Cookie の設定 >

- ① Internet Explorerを起動し、ツールバーの「ツール」→「インターネットオプション」をクリックする。
- ② 「プライバシー」タブをクリックし、[詳細設定] をクリックして、「自動Cookie 処理を上書きする」にチェックがついていることを確認し、[OK] をクリックする。



< Javascript の設定 >

- ① 「セキュリティ」タブをクリックし、[レベルのカスタマイズ] をクリックする。
- ② スクリプト項目のアクティブスクリプトが「有効にする」に設定されていることを確認し、[OK] をクリックする。



1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

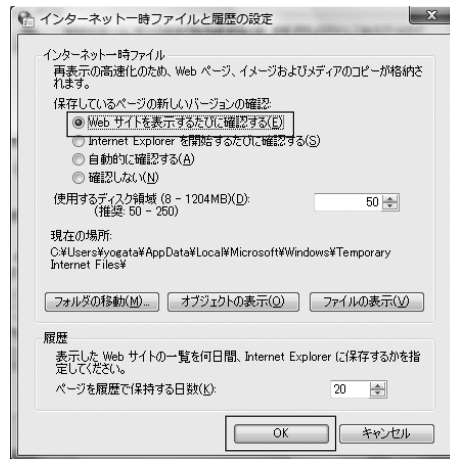
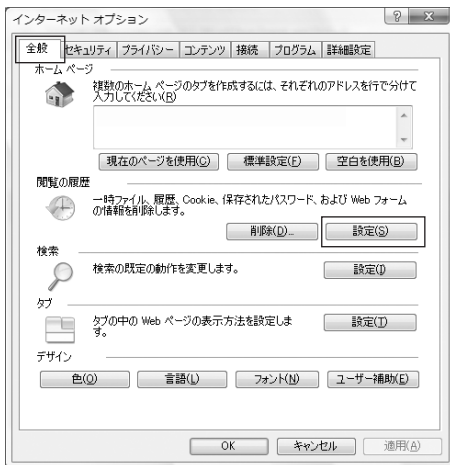
5 バージョンアップ

6 主な設定例

7 ご参考に

< キャッシュ機能の設定 >

- ① 「全般」タブをクリックし、[閲覧の履歴] の [設定] をクリックする。
- ② 「Web サイトを表示するたびに確認する」に設定されていることを確認し、[OK] をクリックする。



- ③ 「インターネット オプション」の [OK] をクリックする。



お知らせ

- Webブラウザは、ホームページを見るためのソフトウェアです。代表的なWebブラウザとして、Microsoft® Internet Explorerがあります。
- Internet Explorerを初めて起動したとき、「インターネットへの接続」というダイアログが起動することがあります。この場合は [キャンセル] をクリックして、ダイアログを終了してください。
- Webブラウザの [戻る]、[進む] は使用しないでください。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- Internet Explorer 7をお使いになる場合、画面表示は [100%] 設定でのご利用をお勧めします。
- 本商品の設定終了後、必要に応じてWebブラウザの設定を変更前の設定に戻してください。

本商品へのデータ設定は、ネットワーク上のパソコンからWebブラウザにより行います。日本語で表示されますので画面に従って各種データを設定します。

データ設定を行う場合は、本商品にログイン（●P36）し、メインメニューから「基本設定」または「ルータ設定」を選択します。

設定方法について

設定方法

本商品の各種設定は、「基本設定」または「ルータ設定」から行います。設定を変更し有効にするためには、[設定保存] を行い、本商品を [再起動] してください。



お知らせ

- 電話機により本商品の保守を行うことができます。
 - 〈対象主装置〉
 - ・ネットコミュニティシステム αNX typeS
 - ・ネットコミュニティシステム αNX typeM
 - 〈保守内容〉
 1. 本商品のIPアドレスとサブネットマスクの確認
 2. 本商品の設定用アカウントとブラウザアクセス制限の設定を初期化
 ※操作方法は、ご利用の主装置の取扱説明書をご参照ください。
- 設定画面や構成は、2010年3月現在のものです。ファームウェアの更新により、設定画面や構成が変わることがあります。
- Webブラウザ画面が正しく表示されない場合などは、WebブラウザのJavaScriptの設定が有効になっているかご確認ください。
- Webブラウザのキャッシュが有効になっていると、最新の設定データが表示されない場合があります。そのときはWebブラウザの「更新」ボタンにより表示し直してください。
- ウィルス監視ソフトが動作していると、設定画面が完全に表示されないことがあります。この場合はウィルス監視ソフトを停止してから設定を行ってください。
- 表示される画面は、使用するWebブラウザにより多少異なります。
- 入力方法は以下のとおりです。
 - ・パソコンからの入力はASCII文字のみですので、シフトJIS（漢字、ひらがな、カナ）は入力しないでください。
 - ・不正なデータを入力するとエラーが表示されます。再度設定する際は、設定前の状態を表示する場合があります。
 - ・データ設定中、「元に戻す」ボタンをクリックすることにより、設定の変更を取り消すことができます。
 - ・チェック欄をクリックするとチェックマークがつけられます。もう一度クリックするとチェックマークを外すことができます。
 - ・チェックマークは複数個つけることができます。
- 2台以上のパソコンから同時にデータ設定を行わないでください。
- Windows 7、Windows Vista (SP2)、または、Windows XP (SP3) では、Webブラウザの「ポップアップブロック」の設定を無効にしてください。また、セキュリティレベルが「高」の場合も、「ポップアップブロック」の設定にかかわらず表示不可となるため、「高」にしないでください。

本商品に接続したパソコンのWebブラウザでログインし、各種データ設定を行うことができます。
画面はWindows Vistaの例です。

1 本商品に接続したパソコンでWebブラウザを起動します。

2 Webブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力し、[Enter]キーを押します。

本商品のIPアドレスの初期値は「192.168.1.1」です。



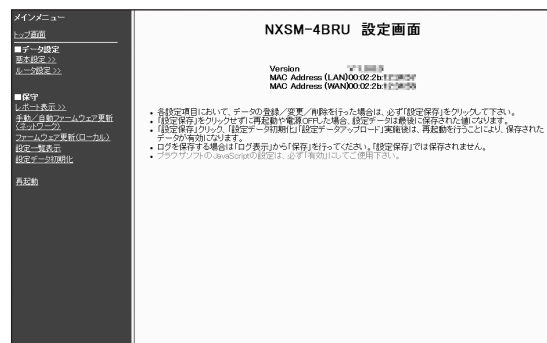
3 ユーザー名／パスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

「ユーザー名」の初期値は「user」です。
「パスワード」の初期値はありません。空欄のままにしてください。
「ユーザー名」と「パスワード」は変更することができます。(P78)



4 メインメニューが表示されます。

左側のメニューから項目をクリックして、データ設定または保守画面へ移動することができます。
設定を変更し有効にするためには、「設定保存」を行い、本商品を「再起動」してください。



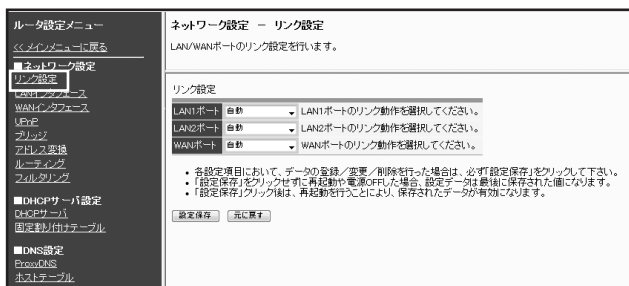
お知らせ

- 「設定保存」をクリックする前に再起動をしたり、停電があった場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- 本商品にWebブラウザからのアクセス制限が設定されている場合、本商品の設定を行うことはできません。Internet Explorerでは「ページが表示できません」等の表示になります。
本商品へ接続ができない場合は、当社のサービス取扱所にお問合せください。

リンク設定

本商品のLAN/WAN ポートのリンク動作を設定します。

1 「リンク設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」 - 「リンク設定」をクリックします。



2 下記の内容に従い、リンク動作の設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	LAN1 ポート	LAN1 ポートのリンク動作を選択します。	自動／100Mbps全二重／100Mbps半二重／10Mbps 全二重／10Mbps 半二重	自動
②	LAN2 ポート	LAN2 ポートのリンク動作を選択します。	自動／100Mbps全二重／100Mbps半二重／10Mbps 全二重／10Mbps 半二重	自動
③	WAN ポート	WAN ポートのリンク動作を選択します。	自動／100Mbps全二重／100Mbps半二重／10Mbps 全二重／10Mbps 半二重	自動

3 「設定保存」ボタンをクリックします。



お知らせ

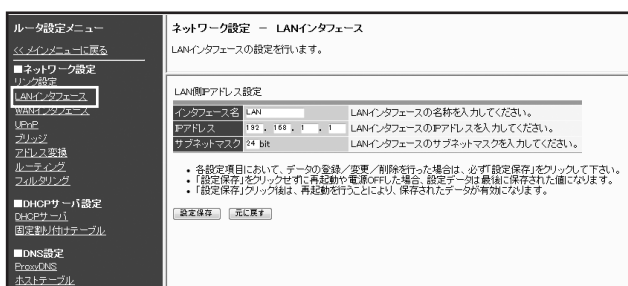
- リンク動作は、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。1000BASE-Tをご利用の場合、リンク動作は、「自動」設定にしてください。

本商品		接続先ポート				
		自動	100Mbps 全二重	100Mbps 半二重	10Mbps 全二重	10Mbps 半二重
自 ポ ー ト	自動	○	—	○	—	○
	100Mbps全二重	—	○	—	—	—
	100Mbps半二重	○	—	○	—	—
	10Mbps全二重	—	—	—	○	—
	10Mbps半二重	○	—	—	—	○

LANインタフェース設定

本商品のLANインタフェースの設定をします。

- 1 「LANインタフェース設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」→「LANインタフェース」をクリックします。



- 2 下記の内容に従い、LANインタフェースの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	インタフェース名	LANインタフェースの名称を設定します。 インタフェースの名称は、システム内で重複することはできません。 ※必ずしも変更する必要はありません。接続先が分かりやすいようにプロバイダ名などに変更すると便利です。	最大8文字 (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	LAN
②	IPアドレス	IPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	192.168.1.1
③	サブネットマスク	サブネットマスクのビット数を設定します。	1~30、10進数 (bit)	24

ワンポイント

●IPアドレスとサブネットマスクの設定について

本商品では、IPアドレスおよびサブネットマスクの設定を変更すると、変更された内容によってはDHCPサーバ設定（P66）を自動的に変更します。

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。

STOP お願い

- 本商品のLAN/WANのIPアドレスを同じネットワークアドレスに設定すると本商品を正しくご利用いただけません。例えば、加入者網終端装置（CTU）のLAN側IPアドレス/マスク長は、初期値「192.168.24.1/24」であり、本商品のLAN側IPアドレス/マスク長は、初期値「192.168.1.1/24」となります。これらのIPアドレスのアドレス空間が重なるような設定（加入者網終端装置（CTU）のIPアドレスを192.168.1.x/24^{※1}に変更するなど）を行うと本商品を正しくご利用いただけません。^{※2}

※1 x=1~254

※2 一旦アドレス空間が重なる設定を行った後に再度正しく（重ならないように）設定変更をする際は、加入者網終端装置（CTU）の再起動後、本商品の再起動が必要となりますのでご注意ください。

お知らせ

- LANインターフェースの設定は、以下のIPアドレスとサブネットマスクの組み合わせでご利用ください。

クラス	IPアドレス	サブネットマスク
クラスA	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255	8 ~ 30
クラスB	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255	16 ~ 30
クラスC	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255	24 ~ 30

WANインタフェース設定

本商品のWANインタフェースに対する設定を行います。
WANインタフェースに対して、IPアドレスを割り当てる方式を以下の3つより選択します。

- PPPoE設定
 - PPPoE認証 PPPoE認証でIPアドレスを割り当てる方式 (WAN1~5)
- IPoE設定
 - IP固定設定 固定IPアドレスを割り当てる方式 (StaticIP)
 - IP自動取得 IPアドレスを自動取得で割り当てる方式 (DHCP)

PPPoE設定とIPoE設定は、同時に有効とすることができます。ただし、IP固定設定とIP自動取得は、いずれか片方のみ有効となります。

1 「WANインタフェース設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」 - 「WANインタフェース」をクリックします。

ルータ設定メニュー

[<< メインメニューに戻る](#)

- ネットワーク設定
- リンク設定
- LANインタフェース
- WANインタフェース**
- UPnP
- ブリッジ
- アドレス変換
- ルーティング
- フィルタリング
- DHCPサーバ設定
- DHCPサーバ
- 固定割り付けテーブル
- DNS設定
- ProxyDNS
- ホストテーブル

ネットワーク設定 - WANインタフェース

WANインタフェースの設定を行います。

PPPoE設定

No.	インタフェース名	セッション	接続ユーザ名
1	WAN1	有効	登録なし
2	WAN2	有効	登録なし
3	WAN3	有効	登録なし
4	WAN4	有効	登録なし
5	WAN5	有効	登録なし

IPoE設定

No.	インタフェース名	セッション	割当方式
1	StaticIP	無効	IP固定設定
2	DHCP	無効	IP自動取得

設定を行う場合はインタフェース名をクリックして下さい。
IPoE設定の「IP固定設定」と「IP自動取得」は、同時に有効に出来ません。

40

■ PPPoE認証でIPアドレスを割り当てる場合 (WAN1~5)

フレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/フレッツ・光プレミアム/フレッツ・ADSLを利用したインターネット接続をするには、プロバイダ等との契約内容に合わせて各項目を設定します。

- 1 「PPPoE設定」画面を表示するには、「WANインタフェース設定」メニューの「PPPoE設定」の一覧から設定するインタフェース名 (初期値: WAN1~5) をクリックします。

ルータ設定メニュー
 << メインメニューに戻る
 ■ ネットワーク設定
 リンク設定
 LANインタフェース
 WANインタフェース
 DHCP
 フォレンジグ
 アドレス変換
 ルーティング
 フィルタリング
 ■ DHCPサーバ設定
 DHCPサーバ
 固定割り付けテーブル
 ■ DNS設定
 ProxyDNS
 ホストテーブル

ネットワーク設定 - WANインタフェース
 WANインタフェースの設定を行います。

PPPoE設定
 PPPoEの設定を行います。

基本設定

インタフェース名	WAN1	PPPoEインタフェースの名前を入力してください。
セッション	有効	PPPoEセッションの利用有無を選択してください。

認証設定

認証方式	PAP	PPPoEセッションの認証方式を選択してください。
接続ユーザ名		認証を行う場合のユーザ名を入力してください。
接続パスワード		認証を行う場合のパスワードを入力してください。

その他

MTU値	1454	PPPoEインタフェースのMTU値を入力してください。
PING応答	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	PPPoEインタフェースにおけるPING応答有無を選択してください。

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックして下さい。
- 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 元に戻す

2 下記の内容に従い、PPPoEの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	インタフェース名	WANインタフェースの名称を設定します。 インタフェースの名称は、システム内で重複することはできません。 ※必ずしも変更する必要はありません。接続先が分かりやすいようにプロバイダ名などに変更すると便利です。	最大8文字 (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	WAN1~WAN5
②	セッション	この接続を有効にするか、無効にするかを選択します。	無効/有効	有効
③	認証方式	プロバイダから指定された認証方式を選択します。	なし/PAP/CHAP	PAP
④	接続ユーザ名	プロバイダとの契約時に通知されるユーザ名 (ログイン名、認証ID、ログインID、接続ID等) を設定します。	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
⑤	接続パスワード	プロバイダとの契約時に通知されるパスワードを設定します。	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
⑥	MTU値	この接続に対するMTU値を設定します。	576~1492	1454
⑦	PING応答	この接続に対してPING応答をするか、しないかを選択します。	しない/する	しない

3 「設定保存」 ボタンをクリックします。



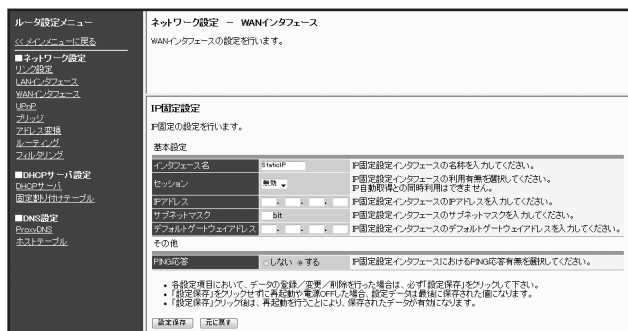
お知らせ

- 接続ユーザ名と接続パスワードの入力は必ず行ってください。
- 自動バージョンアップ機能によりダウンロードを行う場合、PPPoEの設定を利用したインターネット接続が切断されることがあります。

■固定IPアドレスを割り当てる場合（StaticIP）

IPアドレスがすでに割り当てられたネットワークに接続するには、IPoE設定のIP固定設定をします。

- 1 「IP固定設定」画面を表示するには、「WANインタフェース設定」メニューの「IPoE設定」の一覧から設定するインタフェース名（初期値：StaticIP）をクリックします。



- 2 下記の内容に従い、IP固定の設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	インタフェース名	WANインタフェースの名称を設定します。 インタフェースの名称は、システム内で重複することはできません。 ※必ずしも変更する必要はありません。接続先が分かりやすいようにプロバイダ名などに変更すると便利です。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	StaticIP
②	セッション	この接続を有効にするか、無効にするかを選択します。	無効/有効	無効
③	IPアドレス	IPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X: 0~255、10進数)	—
④	サブネットマスク	サブネットマスクのビット数を設定します。	1~32、10進数 (bit)	—
⑤	デフォルトゲートウェイアドレス	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X: 0~255、10進数)	—
⑥	PING応答	この接続に対してPING応答をするか、しないかを選択します。	しない/する	する

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。



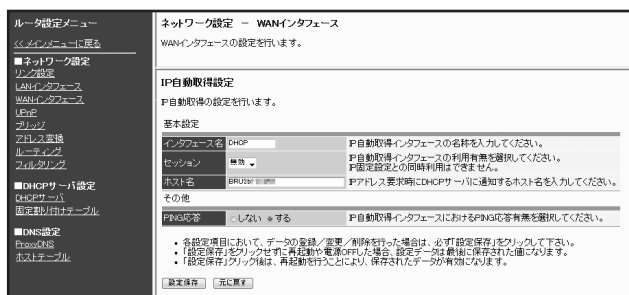
お知らせ

- セッション設定で「有効」を選択した場合、IP自動取得設定（P44）のセッション設定は自動的に「無効」になります。

■IPアドレスを自動取得する場合（DHCP）

ネットワークからIPアドレスを自動取得するには、IPoE設定のIP自動取得設定をします。

- 1 「IP自動取得設定」画面を表示するには、「WANインタフェース設定」メニューの「IPoE設定」の一覧から設定するインタフェース名（初期値：DHCP）をクリックします。



- 2 下記の内容に従い、IP自動取得の設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	インタフェース名	WANインタフェースの名称を設定します。 インタフェースの名称は、システム内で重複することはできません。 ※必ずしも変更する必要はありません。接続先がわかりやすいようにプロバイダ名などに変更すると便利です。	最大8文字（A～Z、a～z、0～9、-、/、_）	DHCP
②	セッション	この接続を有効にするか、無効にするかを選択します。	無効／有効	無効
③	ホスト名	自動取得するときのホスト名を設定します。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	BRUaaaaaaaa (a：本商品のWANインタフェースのMACアドレスの下4バイト分)
④	PING応答	この接続に対してPING応答をするか、しないかを選択します。	しない／する	する

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。



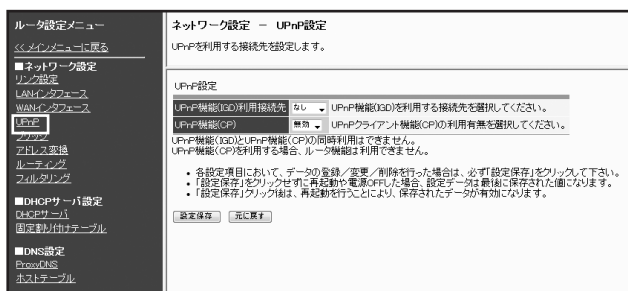
お知らせ

- セッション設定で「有効」を選択した場合、IP固定設定（P43）のセッション設定は自動的に「無効」になります。

UPnP設定

本商品のUPnP (Universal Plug and Play) の設定をします。

1 「UPnP設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「UPnP」をクリックします。



2 下記の内容に従い、UPnPの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	UPnP機能 (IGD) 利用接続先	UPnP (IGD) を利用するインタフェースを選択します。	なし/WAN1/WAN2/WAN3/WAN4/WAN5/DHCP	なし
②	UPnP機能 (CP)	UPnP機能 (CP) を有効にするか、無効にするかを選択します。	無効/有効	無効

3 「設定保存」ボタンをクリックします。



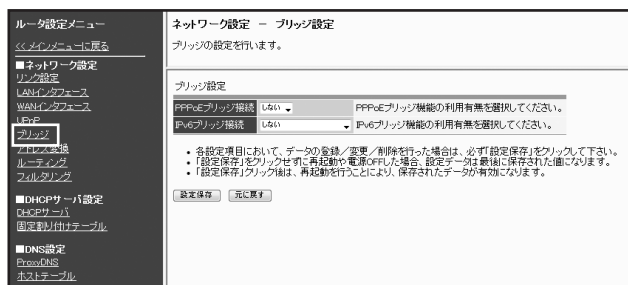
お知らせ

- UPnP機能 (IGD) とUPnP機能 (CP) を同時に利用することはできません。
- UPnP機能 (CP) 設定で「有効」を選択した場合、以下のデータ設定が必要です。
 - StaticIPまたはDHCPのセッション設定「有効」(●P43,44)
 - ルータ機能「無効」(●P55)
 - アドレス変換方式「しない」(●P49)

ブリッジ設定

PPPoEブリッジ機能とは、本商品のLANインタフェースに接続されているパソコンからPPPoEプロトコルで直接インターネットに接続し、パソコンでグローバルIPアドレスを取得することができる機能です。IPv6ブリッジ機能とは、本商品のLAN/WANインタフェースに接続されているネットワーク機器同士でIPv6プロトコルによる通信を行うことができる機能です。

1 「ブリッジ設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「ブリッジ」をクリックします。



2 下記の内容に従い、ブリッジの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	PPPoEブリッジ接続	PPPoEブリッジ接続するか、しないかを選択します。	しない/する	しない
②	IPv6ブリッジ接続	IPv6ブリッジ接続するか、しないかを選択します。	しない/する/する(フレッツ光ネクスト)	しない



ワンポイント

●インターネット接続設定とPPPoEブリッジの併用

PPPoEブリッジ接続により、インターネット接続中にフレッツ・スクウェアなどへLAN側からアクセスすることができます。

3 「設定保存」ボタンをクリックします。



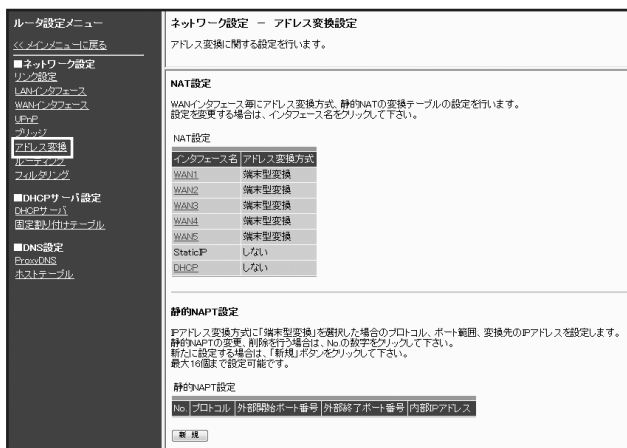
お知らせ

- PPPoEブリッジ接続と本商品のWAN接続を利用する場合、契約回線（フレッツ 光ネクスト、Bフレッツ、フレッツ・光プレミアム、フレッツ・ADSL）のセッション数制限により同時に利用できないことがあります。
- PPPoEブリッジによりフレッツ・スクウェアまたはフレッツ・スクウェア ネクストへ直接接続されているパソコンからは、インターネットを同時に利用できないことがあります。
- パソコンからのPPPoEによる接続プロバイダと本商品の接続プロバイダが同じアカウントに設定されていると、同時に接続することができないことがあります。ご注意ください。
- 自動バージョンアップ機能によりダウンロードを行う場合、PPPoEブリッジ機能を利用したインターネット接続が切断されることがあります。
- 契約回線がフレッツ 光ネクストの時、IPv6ブリッジ機能を利用する場合、IPv6ブリッジ接続を「する（フレッツ 光ネクスト）」に設定します。
その他の契約回線でIPv6ブリッジ機能を利用する場合、IPv6ブリッジ接続を「する」に設定します。

アドレス変換設定

WANインタフェース設定ごとにNAT/静的NAPTの設定をします。

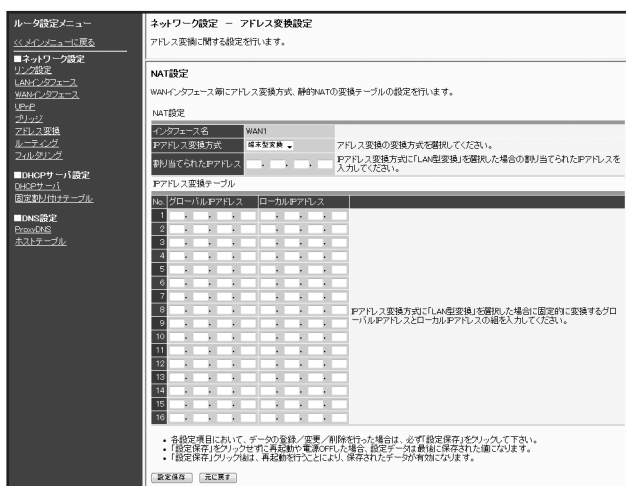
- 1 「アドレス変換設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「アドレス変換」をクリックします。



■NAT設定

WANインタフェース設定（IP固定設定を除く）ごとにアドレス変換方式およびグローバルIPアドレスとローカルIPアドレスの変換テーブルを設定します。WANインタフェース設定ごとにIPアドレス変換テーブルは、最大16個まで設定できます。

1 「NAT設定」画面を表示するには、「アドレス変換設定」メニューの「NAT設定」の一覧から設定するインタフェース名をクリックします。



2 下記の内容に従い、NATの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	インタフェース名	WANインタフェース設定で設定した名称が表示されます。(●P40)	—	WAN1/ WAN2/ WAN3/ WAN4/ WAN5/ DHCP
②	IPアドレス変換方式	IPアドレス変換方式を選択します。 LAN型変換：グローバルIPアドレスをプロバイダ契約時に割り当てられるとき 端末型変換：グローバルIPアドレスをプロバイダ接続時に割り当てられるとき ※IPアドレス変換方式「LAN型変換」以外を選択した場合、下記2項目の設定は無効になります。	・ PPPoE設定 しない／LAN型変換／ 端末型変換 ・ IP自動取得設定 しない／端末型変換	・ PPPoE設定 端末型変換 ・ IP自動取得設定 しない
③	割り当てられたIPアドレス	LAN型変換時にプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスを設定します。 ※IPアドレス変換方式「LAN型変換」を選択した場合のみ有効です。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
④	IPアドレス変換テーブル	LAN型変換時にプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスと対応して変換させるローカルIPアドレスを設定します。 ※IPアドレス変換方式「LAN型変換」を選択した場合のみ有効です。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—



ワンポイント

- StaticIPインタフェースに対しては、IPアドレス変換方式「しない」以外設定できません。
- UPnP機能（CP）設定で「有効」を選択した場合、StaticIP/DHCPインタフェースに対しては、IPアドレス変換方式「しない」のみ設定できます。

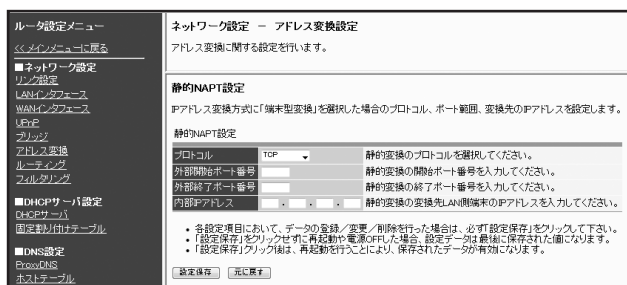
3 「設定保存」 ボタンをクリックします。

■静的NAPT設定

外部からの接続確立が必要なサービスを利用する場合、IPアドレス変換機能により接続の確立ができない場合があります。このようなときは、外部からの接続確立が必要なサービスに対して、静的NAPT設定にTCP/UDPプロトコル、およびポート番号から内部のローカルIPアドレスへの変換を行うように設定することで、外部からの接続を確立することができます。最大16個まで設定可能です。

● 新規に登録する場合

1 「アドレス変換設定」メニューの「静的NAPT設定」より「新規」をクリックします。



2 下記の内容に従い、静的NAPTの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	プロトコル	変換するプロトコルを選択します。	TCP / UDP / TCP/UDP	TCP
②	外部開始ポート番号	TCPまたはUDPの開始ポート番号を設定します。	0~65535、10進数	—
③	外部終了ポート番号	TCPまたはUDPの終了ポート番号を設定します。	0~65535、10進数	—
④	内部IPアドレス	上記のプロトコルおよびポート番号と一致したパケットに対してアドレス変換を行うローカルIPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—

3 「設定保存」ボタンをクリックします。

静的NAPTテーブルが追加されます。

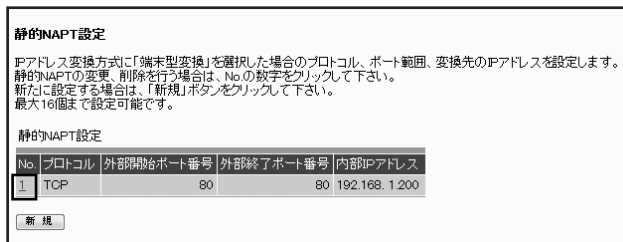


お知らせ

- 変換するテーブルのIPアドレスは固定で設定される必要があるため、DHCPサーバ機能を利用しているときは、必ず「固定割り付けテーブル」で静的にIPアドレスを割り付けるように設定してください。(P68)

● 変更する場合

- 1 「アドレス変換設定」メニューの「静的NAPT設定」より「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。



- 2 静的NAPT設定を変更します。

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。
静的NAPTテーブルが変更されます。

● 削除する場合

- 1 「アドレス変換設定」メニューの「静的NAPT設定」より「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

静的NAPT設定

IPアドレス変換方式に「端末型変換」を選択した場合のプロトコル、ポート範囲、変換先のIPアドレスを設定します。
静的NAPTの変更、削除を行う場合は、「No.」の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大16個まで設定可能です。

静的NAPT設定

No.	プロトコル	外部開始ポート番号	外部終了ポート番号	内部IPアドレス
1	TCP	80	80	192.168.1.200

- 2 静的NAPT設定が表示されるので、確認します。

- 3 「削除」ボタンをクリックします。

「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。

ルータ設定メニュー
[ルータ設定メニューに戻る](#)

- ネットワーク設定
 - IPアドレス設定
 - LANインタフェース
 - WANインタフェース
 - IPv6
 - ブリッジ
 - アドレス変換
 - ルーティング
 - フィルタリング
- DHCPサーバ設定
 - DHCPサーバ
 - 固定割り付けテーブル
- DNS設定
 - ProxyDNS
 - ホストテーブル

ネットワーク設定 - アドレス変換設定
 アドレス変換に関する設定を行います。

静的NAPT設定

IPアドレス変換方式に「端末型変換」を選択した場合のプロトコル、ポート範囲、変換先のIPアドレスを設定します。

静的NAPT設定

プロトコル	外部開始ポート番号	外部終了ポート番号	内部IPアドレス
TCP	80	80	192.168.1.200

静的変換のプロトコルを選択してください。
 静的変換の開始ポート番号を入力してください。
 静的変換の終了ポート番号を入力してください。
 静的変換の変換先LAN側端末のIPアドレスを入力してください。

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックして下さい。
- 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 「設定保存」クリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

静的NAPTテーブルが削除されます。



ワンポイント

- 削除を中止するには
手順4で [キャンセル] をクリックします。

ルーティング設定

ルーティング設定では、登録されたIPアドレスによるルーティングの設定を行います。ルーティング用テーブルは、デフォルトルートをも1個、スタティックIPルーティングを16個、ソースルーティングを4個、ドメインルーティングを8個まで設定することができます。

1 「ルーティング設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「ルーティング」をクリックします。



■デフォルトルート設定

- 1 「デフォルトルート設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「ルーティング」をクリックします。

- 2 下記の内容に従い、デフォルトルートの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	ルータ機能	ルータ機能を有効にするか、無効にするかを選択します。 ※ ルータ機能「無効」を選択した場合、これ以降の設定は無効になります。 ※ UPnP機能 (CP) 設定で「有効」を選択した場合、本設定を「有効」にすることはできません。	無効/有効	有効
②	ダイナミックルーティング機能	動的 (ダイナミック) ルーティングを有効にするか、無効にするかを選択します。	無効/有効	無効
③	ルーティング情報送出	ルーティング情報をLANインタフェース側に送出するのを有効にするか、無効にするかを選択します。 ※ ダイナミックルーティング機能「有効」を選択した場合のみ有効です。	無効/有効	無効
④	経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースを選択します。 他のルーティング設定でルーティングされなかったパケットは、ここで選択した経路先へルーティングされます。	なし/固定IPアドレス/ LAN/WAN1/ WAN2/WAN3/ WAN4/WAN5/ StaticIP/DHCP	WAN1
⑤	経路先IPアドレス	経路先「固定IPアドレス」を選択した場合のみ有効で、経路先IPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑥	ホップ数	経路先との距離 (コスト/ホップ数) を設定します。	1~16、10進数	1

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。

■スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定

● 新規に登録する場合

- 1 「ルーティング設定」メニューの「スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定」より「新規」をクリックします。

スタティックIPルーティング設定

スタティックIPルーティングの変更、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大16個まで設定可能です。

No.	IPアドレス	サブネットマスク	経路先	ホップ数
<input type="button" value="新規"/>				

ソースルーティング設定

ソースルーティングの変更、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大4個まで設定可能です。

No.	IPアドレス	サブネットマスク	経路先	ホップ数
<input type="button" value="新規"/>				

ドメインルーティング設定

ドメインルーティングの変更、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大6個まで設定可能です。

No.	ドメイン名	経路先	DNSサーバアドレス	ホップ数
<input type="button" value="新規"/>				

- 2 下記の内容に従い、スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティングの設定を行います。

※スタティックIPルーティング設定（最大16個）

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	IPアドレス	ルーティングする送信先IPアドレスを設定します。 ここで設定した送信先IPアドレス宛てのパケットを本商品が受信すると、「経路先」で設定したインタフェースへルーティングします。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
②	サブネットマスク	ルーティングする送信先IPアドレスのサブネットマスクのビット数を設定します。	1~32、10進数 (bit)	—
③	経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースを選択します。	固定IPアドレス/ LAN/WAN1/ WAN2/WAN3/ WAN4/WAN5/ StaticIP/DHCP	固定IPアドレス
④	経路先IPアドレス	経路先「固定IPアドレス」を選択した場合のみ有効で、経路先IPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑤	ホップ数	経路先との距離（コスト/ホップ数）を設定します。	1~16、10進数	—

※ソースルーティング設定（最大4個）

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	IPアドレス	ルーティングする送信元IPアドレスを設定します。 ここで設定した送信元IPアドレスからのパケットを本商品が受信すると、「経路先」で設定したインタフェースへルーティングします。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
②	サブネットマスク	ルーティングする送信元IPアドレスのサブネットマスクのビット数を設定します。	1~32、10進数 (bit)	—
③	経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはインタフェースを選択します。	固定IPアドレス/ LAN/WAN1/ WAN2/WAN3/ WAN4/WAN5/ StaticIP/DHCP	固定IPアドレス
④	経路先IPアドレス	経路先「固定IPアドレス」を選択した場合のみ有効で、経路先IPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑤	ホップ数	経路先との距離（コスト/ホップ数）を設定します。	1~16、10進数	—



ワンポイント

- ソースルーティングにより複数のプロバイダ等と接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。

※ドメインルーティング設定（最大8個）

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	ドメイン名	ルーティングの対象となるドメイン名を設定します。	最大128文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	—
②	経路先	経路先の指定方法としてインタフェースを選択します。	LAN/WAN1/ WAN2/WAN3/ WAN4/WAN5/ StaticIP/DHCP	LAN
③	DNSサーバアドレス	ドメイン名の問い合わせを行うDNSサーバアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
④	ホップ数	経路先と距離（コスト/ホップ数）を設定します。	1~16、10進数	—



ワンポイント

- お使いのパソコンが本商品のProxyDNS機能を利用しない場合は、ドメインルーティングがご利用になれません。
- お使いのパソコンや本商品にDNS問い合わせ結果が保存されている場合は、ドメインルーティングが正常に動作しないことがあります。このような場合は、以下の操作によりDNS問い合わせ結果をクリアしてください。
 - パソコンを再起動する
 - 本商品のDNSキャッシュテーブルをクリアする（●P84）

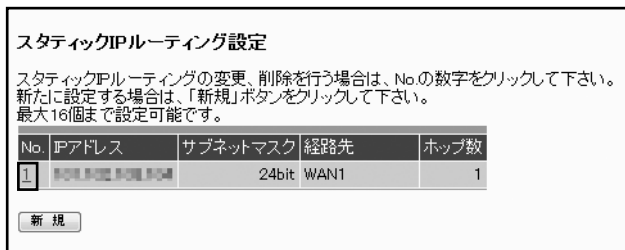
3

「設定保存」ボタンをクリックします。

ルーティングテーブルが追加されます。

● 変更する場合

- 1 「ルーティング設定」メニューの「スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定」より「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。



記載例は、スタティックIPルーティング設定画面です。

- 2 「スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定」を変更します。

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。

ルーティングテーブルが変更されます。

● 削除する場合

- 1 「ルーティング設定」メニューの「スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定」より「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。

スタティックIPルーティング設定

スタティックIPルーティングの変更、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大16個まで設定可能です。

No.	IPアドレス	サブネットマスク	経路先	ホップ数
1	192.168.1.1	24bit	WAN1	1

新規

記載例は、スタティックIPルーティング設定画面です。

- 2 「スタティックIPルーティング／ソースルーティング／ドメインルーティング設定」が表示されるので、確認します。

- 3 「削除」ボタンをクリックします。

「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。

ルータ設定メニュー

ネットワーク設定

スタティックIPルーティング設定

スタティックIPルーティングの変更、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
最大16個まで設定可能です。

スタティックIPルーティング設定

IPアドレス スタティックIPルーティングするIPアドレスを入力して下さい。

サブネットマスク スタティックIPルーティングするIPアドレスのサブネットマスクを入力して下さい。

経路先 スタティックルートを経路先を選択して下さい。

ホップ数 スタティックルートへのホップ数を入力して下さい。

記載例は、スタティックIPルーティング設定画面です。

- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

ルーティングテーブルが削除されます。



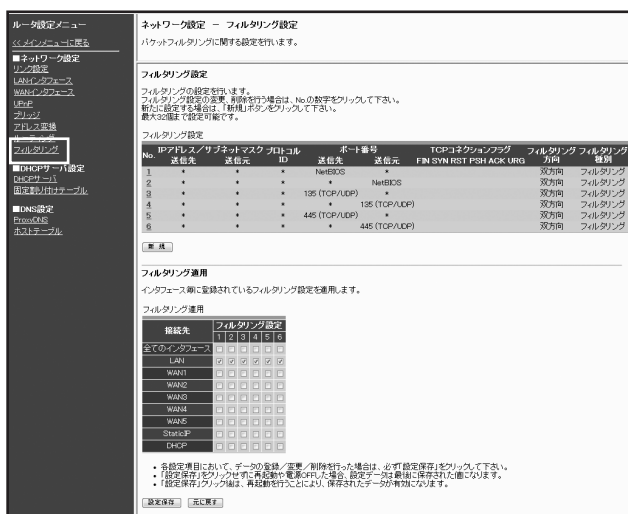
ワンポイント

- 削除を中止するには
手順4で [キャンセル] をクリックします。

フィルタリング設定

IPパケットのフィルタリングは、すべてのインタフェース、LAN/WANインタフェースに対して設定することができます。フィルタリング設定は、最大32個まで設定できます。フィルタリングは、送信先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルID、送信先ポート、送信元ポート、TCPコネクションフラグごとに設定することができます。またフィルタリングするパケットの方向、およびフィルタリングの設定内容と一致した場合の動作を設定することができます。

1 「フィルタリング設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「フィルタリング」をクリックします。



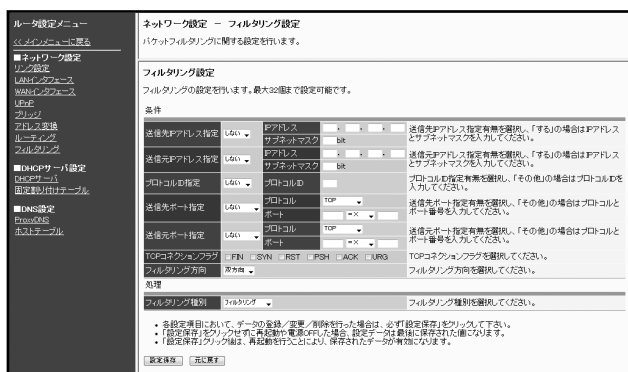
お知らせ

- お買い求め時、LANインタフェースに対してNetBIOS/DCE準拠RPC/ダイレクト・ホスティングSMBサービスのフィルタリングが設定されています。

■フィルタリング設定

● 新規に登録する場合

1 「フィルタリング設定」メニューより「新規」をクリックします。



2 下記の内容に従い、フィルタリングの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	送信先IPアドレス指定	フィルタリングするパケットの送信先IPアドレスを設定します。 送信先IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信先IPアドレス (X.X.X.X, X: 0~255) とサブネットマスクのビット数 (1~32) を設定します。 ※ 送信先IPアドレス指定「しない」を選択した場合、すべての送信先IPアドレスがフィルタリング設定の対象になります。	しない/する	しない
②	送信元IPアドレス指定	フィルタリングするパケットの送信元IPアドレスを設定します。 送信元IPアドレス指定「する」を選択した場合は、送信元IPアドレス (X.X.X.X, X: 0~255) とサブネットマスクのビット数 (1~32) を設定します。 ※ 送信元IPアドレス指定「しない」を選択した場合、すべての送信元IPアドレスがフィルタリング設定の対象になります。	しない/する	しない
③	プロトコルID指定	フィルタリングするパケットのプロトコルIDを設定します。 「その他」を選択した場合は、プロトコルID (0~255) を設定します。 ※ プロトコルID指定「しない」を選択した場合、すべてのプロトコルIDがフィルタリング設定の対象になります。	しない/TCP/ UDP/その他	しない

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
④	送信先ポート指定	<p>フィルタリングするパケットの送信先ポートを設定します。「その他」を選択した場合は、以下のように送信先ポートの範囲指定 (X) を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトコルID : TCP / UDP / TCP/UDP ・範囲設定 : ポート番号=X (一致) ポート番号>X (小さい) ポート番号<X (大きい) ポート番号<X<ポート番号 (範囲) <p>※ポート番号は、0~65535の範囲で設定します。 ※送信先ポート指定「しない」を選択した場合、すべての送信先ポートがフィルタリング設定の対象になります。 ※送信先ポート指定「その他」、送信先ポート範囲「<X<」を選択した場合、「<X<」の前後の入力欄はともに入力する必要があります。</p>	しない/FTP/ TELNET/DNS/ GOPHER/HTTP/ HTTPS/POP3/ NetBIOS/SNMP/ SMTP/NNTP/ NTP/その他	しない
⑤	送信元ポート指定	<p>フィルタリングするパケットの送信元ポートを設定します。「その他」を選択した場合は、以下のように送信元ポートの範囲指定 (X) を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトコルID : TCP / UDP / TCP/UDP ・範囲設定 : ポート番号=X (一致) ポート番号>X (小さい) ポート番号<X (大きい) ポート番号<X<ポート番号 (範囲) <p>※ポート番号は、0~65535の範囲で設定します。 ※送信元ポート指定「しない」を選択した場合、すべての送信元ポートがフィルタリング設定の対象になります。 ※送信元ポート指定「その他」、送信元ポート範囲「<X<」を選択した場合、「<X<」の前後の入力欄はともに入力する必要があります。</p>	しない/FTP/ TELNET/DNS/ GOPHER/HTTP/ HTTPS/POP3/ NetBIOS/SNMP/ SMTP/NNTP/ NTP/その他	しない
⑥	TCPコネクションフラグ	<p>TCPコネクションフラグによるフィルタリングを設定します。</p> <p>※複数選択した場合、チェックしたすべてのフラグに一致したパケットを、一致と判断します。</p>	FIN/SYN/ RST/PSH/ ACK/URG	—
⑦	フィルタリング方向	<p>フィルタリングするパケットの方向を選択します。</p>	双方向/受信/ 送信	双方向
⑧	フィルタリング種別	<p>設定内容と一致した場合の動作を選択します。</p>	フィルタリング/ フォワーディング	フィルタリング



ワンポイント

●フィルタリング種別について

フィルタリング設定テーブルのフィルタリング種別について以下に示します。テーブルの検索も以下の順番により行われます。

- ①フォワーディング：条件に一致したパケットはすべてフォワーディング（通過）します。
- ②フィルタリング：条件に一致したパケットをフィルタリング（破棄）します。

フィルタリング設定テーブルで複数のフィルタリング設定を選択した場合は、フィルタリング種別が「フォワーディング」、「フィルタリング」の順番に検索を行います。

※なお、いずれの設定にも一致しないパケットについてはすべてフォワーディングされます。

3 「設定保存」 ボタンをクリックします。

フィルタリングテーブルが追加されます。

4 全てのインタフェース／LAN／WAN1～WAN5／StaticIP／DHCPに対して、設定したフィルタリングを適用するかどうかを設定します。

フィルタリング設定を適用する接続先名のフィルタリング設定にチェックを入れてください。

フィルタリング適用
インタフェース毎に登録されているフィルタリング設定を適用します。

フィルタリング適用

接続先	フィルタリング設定						
	1	2	3	4	5	6	7
全てのインタフェース	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
WAN1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
WAN2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
WAN3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
WAN4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
WAN5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
StaticIP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
DHCP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 各設定項目において、データの登録／変更／削除を行った場合は、必ず「設定保存」をクリックして下さい。
- 「設定保存」をクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 「設定保存」をクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

5 「設定保存」 ボタンをクリックします。

● 変更する場合

1 「フィルタリング設定」メニューの「フィルタリング設定」より「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

フィルタリング設定

フィルタリングの設定を行います。
 フィルタリング設定の追加、削除を行う場合は、No.の数字をクリックして下さい。
 新たに設定する場合は、「新規」ボタンをクリックして下さい。
 最大32個まで設定可能です。

フィルタリング設定

No.	IPアドレス/サブネットマスク		プロトコル ID	ポート番号		TCPコネクションフラグ							フィルタリング方向	フィルタリング種別		
	送信先	送信元		送信先	送信元	FIN	SYN	RST	PSH	ACK	URG					
1	*	*	*		NetBIOS	*									双方向	フィルタリング
2	*	*	*		NetBIOS	*									双方向	フィルタリング
3	*	*	*		135 (TCP/UDP)	*									双方向	フィルタリング
4	*	*	*		*	135 (TCP/UDP)									双方向	フィルタリング
5	*	*	*		445 (TCP/UDP)	*									双方向	フィルタリング
6	*	*	*		*	445 (TCP/UDP)									双方向	フィルタリング
7	*	*	*		*	*									双方向	フィルタリング

新規

2 フィルタリング設定を変更します。

3 「設定保存」ボタンをクリックします。
 フィルタリングテーブルが変更されます。

● 削除する場合

- 1 「フィルタリング設定」メニューの「フィルタリング設定」より「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。



- 2 「フィルタリング設定」が表示されるので、確認します。

- 3 「削除」ボタンをクリックします。

「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。



- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

フィルタリングテーブルが削除されます。



ワンポイント

- 削除を中止するには
手順4で [キャンセル] をクリックします。

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能は、LAN側に接続されているパソコンからの要求により設定されたIPアドレスの割り付けやサーバアドレス情報の通知を行います。

本商品のDHCPサーバ機能としては、次のデータを割り付けまたは通知します。

- ①Client Server-assigned IP address : クライアントに割り付けるIPアドレス
- ②Server IP address (DHCP Server) : 本商品のIPアドレス
- ③Subnet mask : 本商品のサブネットマスク
- ④Gateway address : ゲートウェイに設定されたIPアドレス
- ⑤Domain Name Server address : 本商品のIPアドレスまたはProxyDNS設定の通知DNSサーバアドレス
- ⑥NetBIOS over TCP/IP Name Server : WINSサーバに設定されたIPアドレス

1 「DHCPサーバ設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」→「DHCPサーバ」をクリックします。



2 下記の内容に従い、DHCPサーバの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	DHCPサーバ機能	DHCPサーバ機能を有効にするか、無効にするかを選択します。 ※DHCPサーバ機能「無効」を選択した場合、以下の設定は無効です。	無効/有効	有効
②	割り付け先頭IPアドレス	クライアントに割り付けるIPアドレスの先頭を設定します。 ※LANインタフェースのIPアドレスとサブネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは設定できません。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	192.168. 1.100
③	割り付け数	割り付けIPアドレスで指定したアドレスから割り付けを行うアドレスの数を設定します。	1~64、10進数 (個)	64
④	リース時間	クライアントに割り付けるIPアドレスの使用期限を設定します。「0」に設定された場合は無期限のリースになります。	0~1000、10進数 (時間)	4
⑤	プライマリWINSサーバアドレス	通知するプライマリWINSサーバIPアドレスを設定します。 ※WINSサーバアドレスを通知しない場合は省略することができます。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑥	セカンダリWINSサーバアドレス	通知するセカンダリWINSサーバIPアドレスを設定します。 ※WINSサーバアドレスを通知しない場合は省略することができます。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑦	デフォルトゲートウェイ	通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	192.168. 1.1

3 「設定保存」ボタンをクリックします。



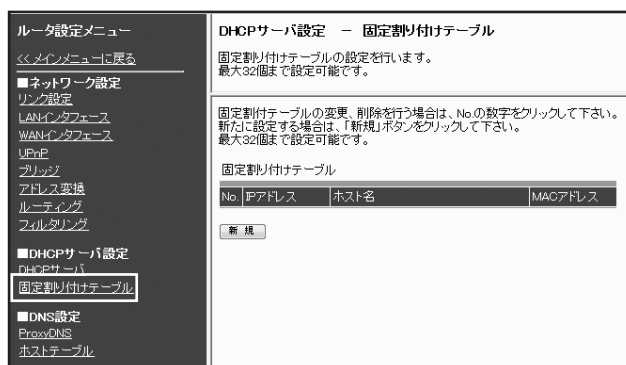
お知らせ

- すでにDHCPサーバ装置がネットワークに接続されている場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「無効」に設定し、DHCPサーバ装置側で一括管理してください。
- 本商品を再起動したときは、DHCPサーバを利用しているパソコンなどを再起動してください。

固定割り付けテーブル設定

固定割り付けテーブルを設定することにより、最大32個のIPアドレスを静的に割り付けることが可能です。

- 1 「固定割り付けテーブル設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」→「固定割り付けテーブル」をクリックします。



お知らせ

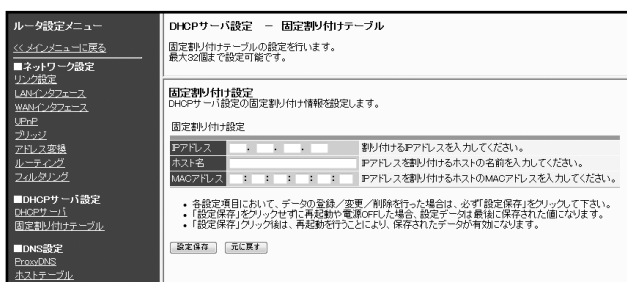
- 静的にIPアドレスを割り付ける場合には、固定割り付けテーブルへの設定が必要になります。
- IPアドレスは、DHCPサーバ設定の範囲内での設定も可能です。ただし、LANインタフェースのIPアドレスとサブネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは無効となります。
- ホスト名/MACアドレスとIPアドレスの組は、最大32個まで設定することができます。
- 端末のMACアドレスは、接続されているLANカード/ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード/ボードの取扱説明書を参照してください。
- IPアドレスの割り付けは、端末から通知されるホスト名、またはMACアドレスが一致した端末に割り付けられます。
- ホスト名とMACアドレスの両方が登録されている場合は、両方が一致する端末に割り付けられます。
- 固定割り付けテーブルの設定は、ホスト名およびMACアドレスの設定により静的に割り付けられます。ホスト名のみ登録では割り付けが重複することがあります。

■固定割り付けテーブル設定

●新規に登録する場合

1

「固定割り付けテーブル設定」メニューより「新規」をクリックします。



2

下記の内容に従い、固定割り付けテーブルの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	IPアドレス	静的に割り付けるIPアドレスを設定します。 ここで設定するIPアドレスはDHCPサーバ設定の範囲内でも登録可能です。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
②	ホスト名	IPアドレスを静的に割り付ける端末のホスト名を設定します。 MACアドレスを入力した場合は省略が可能です。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	—
③	MACアドレス	IPアドレスを静的に割り付ける端末のMACアドレスを設定します。 ホスト名を入力した場合は省略が可能です。	XX:XX:XX:XX:XX:XX (X:0~F、16進数)	—

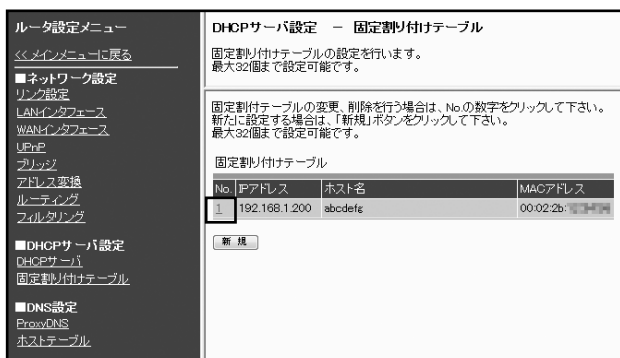
3

「設定保存」ボタンをクリックします。

固定割り付けテーブルが追加されます。

● 変更する場合

- 1 「固定割り付けテーブル設定」メニューの「固定割り付けテーブル」より「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

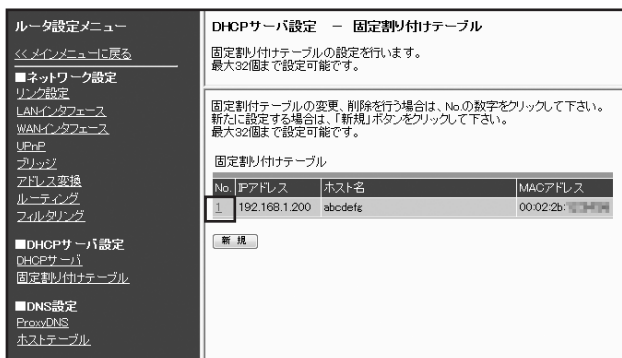


- 2 固定割り付けテーブル設定を変更します。

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。
固定割り付けテーブルが変更されます。

● 削除する場合

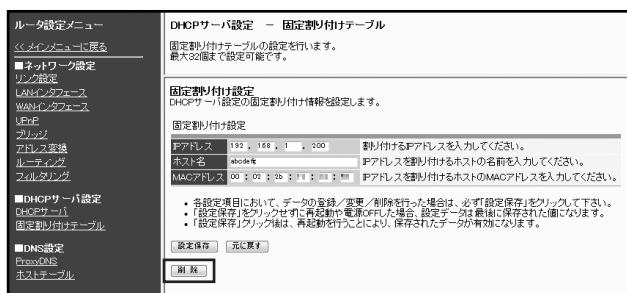
- 1 「固定割り付けテーブル設定」メニューの「固定割り付けテーブル」より「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。



- 2 「固定割り付けテーブル設定」が表示されるので、確認します。

- 3 「削除」ボタンをクリックします。

「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。



- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

固定割り付けテーブルが削除されます。



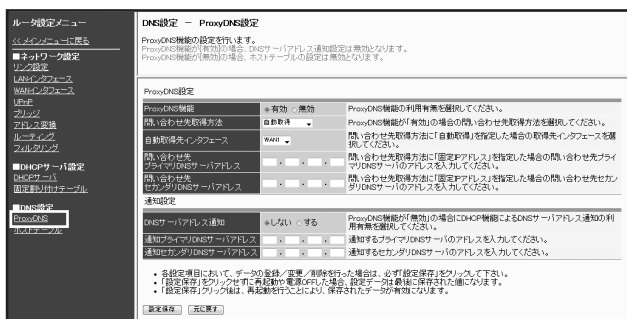
ワンポイント

- 削除を中止するには
 手順4で [キャンセル] をクリックします。

ProxyDNS設定

DNS機能は、ネットワーク端末のDNSサーバアドレスを本商品のIPアドレスに設定することで、接続先のDNSサーバを使用してアドレス解決を行います。このため、パソコン側の設定を変更せずにアドレス解決が可能になります。

1 「ProxyDNS設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「ProxyDNS」をクリックします。



2

下記の内容に従い、ProxyDNSの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	ProxyDNS機能	ProxyDNS機能を有効にするか、無効にするかを選択します。 ※ProxyDNS機能「無効」の場合、問い合わせ先取得方法、問い合わせ先プライマリDNSサーバ、問い合わせ先セカンダリDNSサーバのIPアドレスの設定は無効です。	無効／有効	有効
②	問い合わせ先取得方法	DNSの問い合わせを解決できないときに問い合わせを行う上位DNSサーバアドレスの取得方法を選択します。 「固定IPアドレス」を選択した場合、設定されたDNSサーバアドレスへ問い合わせを行います。 「自動取得」を選択した場合、自動取得先インタフェースから通知されるDNSサーバアドレスへ問い合わせを行います。 ※接続先のプロバイダ等によってはDNSサーバアドレスを取得できない場合があります。この場合、「固定IPアドレス」を選択し、プロバイダ等から指定されたDNSサーバアドレスを「問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス／問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス」に設定します。	固定IPアドレス／自動取得	自動取得
③	自動取得先インタフェース	問い合わせ先取得方法「自動取得」を選択した場合のみ、自動取得先インタフェースを選択します。	WAN1／WAN2／WAN3／WAN4／WAN5／DHCP	WAN1
④	問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス	問い合わせ先取得方法「固定IPアドレス」を選択した場合のみ、問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑤	問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス	問い合わせ先取得方法「固定IPアドレス」を選択した場合のみ、問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレスを設定します。 この設定は省略することができます。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑥	DNSサーバアドレス通知	ProxyDNS機能「無効」を選択した場合、DHCPサーバ機能によりDNSサーバアドレス通知をするか、しないかを選択します。 ProxyDNS機能「有効」を選択した場合、本商品のIPアドレスを通知します。 ※DNSサーバアドレス通知「しない」を選択した場合、通知プライマリDNSサーバアドレスと通知セカンダリDNSサーバアドレスの設定は無効になります。	しない／する	しない
⑦	通知プライマリDNSサーバアドレス	DNSサーバアドレス通知「する」を選択した場合のみ、通知プライマリDNSサーバアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—
⑧	通知セカンダリDNSサーバアドレス	DNSサーバアドレス通知「する」を選択した場合のみ、通知セカンダリDNSサーバアドレスを設定します。 この設定は省略することができます。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—

3

「設定保存」ボタンをクリックします。



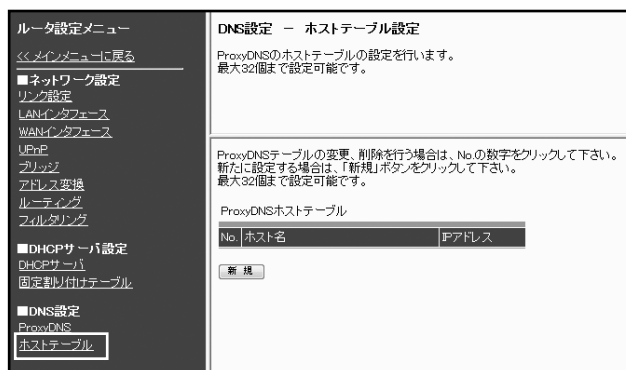
お知らせ

- ソースルーティングにより複数のプロバイダ等と接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。

ホストテーブル設定

ホストテーブルにホスト名とIPアドレスを登録することにより一致するホスト名に対してDNSの代理応答を行います。ホスト名とIPアドレスの組み合わせは、最大32個まで設定することができます。

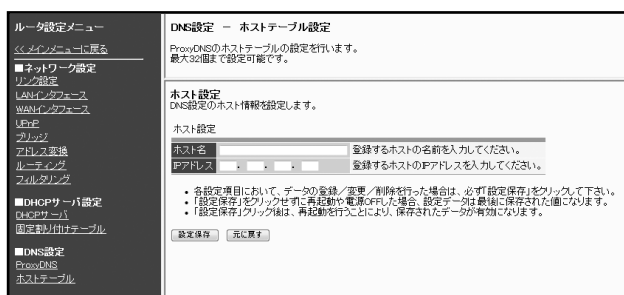
- 1 「ホストテーブル設定」画面を表示するには、メニューの「ルータ設定」－「ホストテーブル」をクリックします。



■ホストテーブル設定

● 新規に登録する場合

1 「ホストテーブル設定」メニューより「新規」をクリックします。



2 下記の内容に従い、ホスト設定を行います。

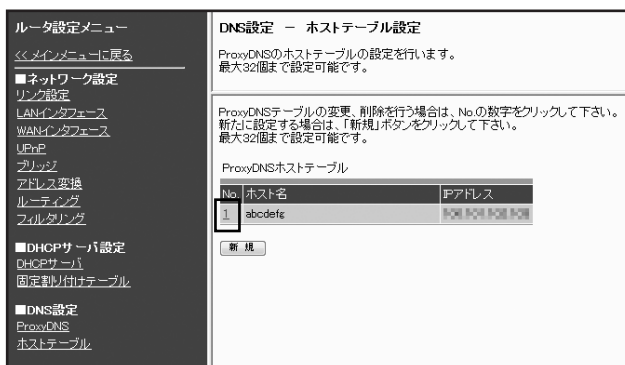
項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	ホスト名	テーブルに登録するホスト名を設定します。	最大32文字（制御コード、スペースを除くASCII文字）	—
②	IPアドレス	ホスト名に対して割り付けるIPアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255、10進数)	—

3 「設定保存」ボタンをクリックします。

ProxyDNSホストテーブルが追加されます。

● 変更する場合

- 1 「ホストテーブル設定」メニューの「ProxyDNSホストテーブル」より「No.」欄の変更したいテーブルの数字をクリックします。

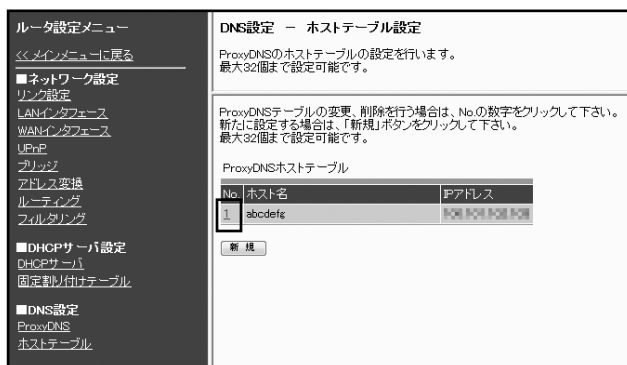


- 2 ホスト設定を変更します。

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。
ProxyDNSホストテーブルが変更されます。

● 削除する場合

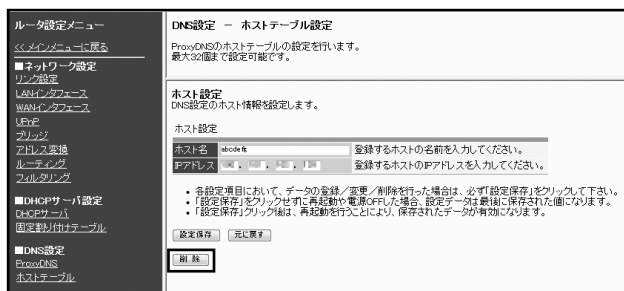
- 1 「ホストテーブル設定」メニューの「ProxyDNSホストテーブル」より「No.」欄の削除したいテーブルの数字をクリックします。



- 2 「ホスト設定」が表示されるので、確認します。

- 3 「削除」ボタンをクリックします。

「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。



- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

ProxyDNSホストテーブルが削除されます。



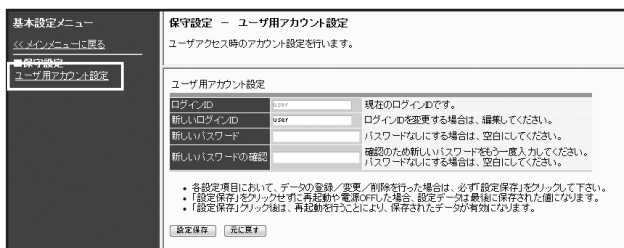
ワンポイント

- 削除を中止するには
手順4で「キャンセル」をクリックします。

ユーザ用アカウントを設定するには

本商品のWebブラウザ画面にログインするためのログインIDとパスワードを設定します。

- 1 「ユーザ用アカウント設定」画面を表示するには、メニューの「基本設定」－「ユーザ用アカウント設定」をクリックします。



- 2 下記の内容に従い、ユーザ用アカウントの設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	ログインID	現在設定されているログインIDが表示されます。	—	user
②	新しいログインID	新しく設定するログインIDを入力します。	最大16文字(半角文字) (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	user
③	新しいパスワード	新しく設定するパスワードを入力します。	最大16文字(半角文字) (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	—
④	新しいパスワードの確認	確認のため新しいパスワードを再入力します。	最大16文字(半角文字) (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	—

- 3 「設定保存」ボタンをクリックします。



お知らせ

- ログインIDとパスワードは、16文字以内で設定してください。
- お買い求め時は、「ログインID」の初期値は「user」です。「パスワード」の初期値はありません。
- 設定保存をクリックしたときに、「同じログインIDが工事者用アカウントで使用されています。」と表示された場合は、別のログインIDを設定しなおしてください。

設定一覧表示を行うには

設定されているデータを一覧表示します。

1 メニューの保守より「設定一覧表示」をクリックします。

<p>メインメニュー</p> <p>トップ画面</p> <p>■データ設定 基本設定 >> ルータ設定 >></p> <p>■保守 レポート表示 >> 手動/自動ファームウェア更新 (ネットワーク) ファームウェア更新(ローカル)</p> <p>設定一覧表示 設定データ初期化</p> <p>再起動</p>	<p>データ設定 - 設定一覧表示</p> <p>データ設定を一覧表示します。</p> <p>ルータ設定</p> <p>ネットワーク設定</p> <p>リンク設定</p> <p>リンク設定</p> <p>LAN1ポート : 自動</p> <p>LAN2ポート : 自動</p> <p>WANポート : 自動</p> <p>LANインタフェース</p> <p>LAN側IPアドレス設定</p> <p>インタフェース名 : LAN</p> <p>IPアドレス : 192.168.1.1</p> <p>サブネットマスク : 24bit</p> <p>WANインタフェース</p> <p>PPPoE設定</p> <p>基本設定</p> <p>インタフェース名 : WAN1</p> <p>セッション : 有効</p> <p>認証設定</p> <p>認証方式 : PAP</p> <p>接続ユーザ名 :</p> <p>接続パスワード :</p> <p>その他</p> <p>MTU値 : 1454</p> <p>PING応答 : しない</p> <p>基本設定</p> <p>インタフェース名 : WAN2</p> <p>セッション : 有効</p> <p>認証設定</p> <p>認証方式 : PAP</p> <p>接続ユーザ名 :</p> <p>接続パスワード :</p> <p>その他</p> <p>MTU値 : 1454</p> <p>PING応答 : しない</p> <p>基本設定</p> <p>インタフェース名 : WAN3</p> <p>セッション : 有効</p> <p>認証設定</p> <p>認証方式 : PAP</p> <p>接続ユーザ名 :</p> <p>接続パスワード :</p> <p>その他</p> <p>MTU値 : 1454</p> <p>PING応答 : しない</p>
--	--

2 設定されているデータが一覧表示されます。

- ・ ネットワーク設定
- ・ DHCPサーバ設定
- ・ DNS設定
- ・ VoIP設定
- ・ 自動ファームウェア更新詳細設定

1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップ

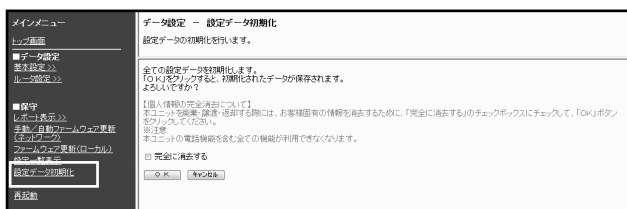
6 主な設定例

7 ご参考に

設定データを初期化するには

設定データの初期化は、設定データを工場出荷時の初期値に戻します。

1 メニューの保守より「設定データ初期化」をクリックします。



2 「OK」ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックすると、「すべての設定データを初期化します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。

3 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。



ワンポイント

- 設定データの初期化を中止するには
手順2、3で [キャンセル] をクリックします。

STOP お願い

- 本商品を廃棄・譲渡・返却する際には、お客様固有の情報を消去する必要があります。個人情報完全に消去するためには、設定データ初期化手順の「2」において、「完全に消去する」のチェックボックスにチェックして、「OK」ボタンをクリックしてください。
完全に消去した場合、本商品の電話機能を含む全ての機能がご利用できなくなります。

運用時に利用できる操作

●運用時に利用できる操作は以下のとおりです。

- WAN/VoIPの起動・停止 (☛P82)
- レポート表示 (動作状態、統計情報など) (☛P83)
- 再起動 (☛P86)

●運用までの操作の流れは以下のとおりです。

- パソコンからの入力は、ASCII文字のみですので、シフトJIS (漢字、ひらがな、カナ) は入力しないでください。

1

パソコンのWebブラウザを起動します。

使用するWebブラウザは以下のものを推奨します。

Windows 7 : Internet Explorer8.0

Windows Vista (SP2) : Internet Explorer7.0または8.0

Windows XP (SP3) : Internet Explorer6.0 (SP3)、7.0または8.0

2

Webブラウザの「アドレス」に本商品のIPアドレスを入力し、[Enter] キーを押します。

本商品のLANインタフェースに対して設定したIPアドレスを入力してください。

お買い求め時の本商品のIPアドレスは「192.168.1.1」です。

認証画面が表示されます。

3

ユーザー名/パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

4

メインメニューから各操作を行います。

操作方法は各項目を参照してください。



お知らせ

- お買い求め時、「ユーザー名」の初期値は「user」です。
「パスワード」の初期値はありません。空欄のままにしてください。
- JavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご利用ください。

動作状態、統計情報などのレポートを表示することができます。

1 メニューの保守より「レポート表示」をクリックします。

レポート表示メニューが表示されます。



2 表示する項目を選択します。

表示したい項目をメニューの中から選択してください。

状態表示

概要	システムの状態を表示します。
表示内容	プログラムバージョン、実装状態、動作状態、MACアドレス、LANインタフェース、WANインタフェースの状態が表示されます。
機能	WANインタフェースの「起動」／「停止」ボタン：WAN/VoIPの起動・停止を操作することができます。(P82)

ログ表示

概要	本商品の動作履歴を表示します。(最大500件)
表示内容	画面表示される主な情報は、P85にてご確認ください。
機能	※ 「クリア」ボタンをクリックすると、すべてのログ情報をクリアします。 ※ 「保存」ボタンをクリックすると、ログ情報を本商品へ保存します。

パケット統計情報表示

概要	各インタフェースの送受信パケット数を表示します。
表示内容	LANおよびWANインタフェースごとに統計情報が表示されます。 ・ 「累計」：インタフェースで送信／受信したパケット数 ・ 「失敗」：送信／受信でエラーが発生したパケット数 ・ 「破棄」：バッファ不足により受信できなかったパケット数
機能	※ 「失敗」や「破棄」の値が多い場合は、ネットワークのトラヒックが異常に高くなっている可能性があります。 ※ 「クリア」ボタンをクリックすると、すべてのパケット統計情報をクリアします。 ※ パケット統計情報は本商品を再起動するとクリアされます。

ARPテーブル表示

概要	ARPテーブルの登録内容を表示します。
表示内容	IPアドレスとMACアドレスの対応表が表示されます。
機能	ARPテーブル情報は本商品を再起動するとクリアされます。

DNSキャッシュテーブル表示

概要	DNSキャッシュテーブルの登録内容を表示します。
表示内容	ドメイン名とIPアドレスが表示されます。
機能	※「クリア」ボタンをクリックすると、DNSキャッシュテーブルの情報がクリアされます。 ※DNSキャッシュテーブルは本商品を再起動するとクリアされます。

IPルーティング情報表示

概要	ルーティング情報を表示します。
表示内容	インタフェースIPルーティング情報、スタティックIPルーティング情報、および学習したダイナミックIPルーティング情報が表示されます。
機能	—

DHCP割り付け状態表示

概要	DHCPによるIPアドレス割り付け状態を表示します。
表示内容	DHCP割り付け状態が表示されます。
機能	※「削除」ボタンをクリックすることにより、選択したDHCP割り付けを削除します。使用されていないIPアドレスを削除することにより、再度割り付けが可能になります。 ※「保存」ボタンをクリックすることにより、DHCP割り付け情報を本商品へ保存します。本商品を再起動しても以前割り付けられたIPアドレスを再び割り付けることができます。

ポートマッピング表示

概要	ポートマッピングの状態を表示します。
表示内容	ポートマッピングの状態が表示されます。
機能	「削除」ボタンをクリックすることにより、選択したポートマッピングを削除します。

◆ログに表示される主な情報

・画面に表示される主な情報は次のとおりです。

ログ表示内容	説明
PPPoE Start	PPPoEの接続が開始されたことを表します。
PPPoE Opened	PPPoEのセッションが確立し通信状態となったことを表します。
PPPoE Send Terminate	PPPoEの切断が開始されたことを表します。
PPPoE Closed	PPPoEの切断が終了したことを表します。
PPP LCP 確立手順開始	LCP確立のネゴシエーションを開始したことを表します。
PPP LCP 手順確立	LCP確立のネゴシエーションが完了したことを表します。
PPP 認証 開始	認証(PAP/CHAP)のネゴシエーションを開始したことを表します。
PPP 認証 成功	認証が成功したことを表します。
PPP 認証 失敗	認証が失敗したことを表します。
PPP IPCP 確立手順開始	IPCP確立のネゴシエーションを開始したことを表します。
PPP IPCP 手順確立	IPCP確立のネゴシエーションが完了したことを表します。
PPP IPCP 完了手順開始	IPCP完了のネゴシエーションを開始したことを表します。
<IP電話サービス名称> サーバ登録成功 (IP電話番号)	SIPサーバへの登録が成功したことを表します。
<IP電話サービス名称> サーバ登録失敗 (IP電話番号) [レスポンスコード]	SIPサーバへの登録に失敗したことを表します。
<IP電話サービス名称> サーバ登録解除 (IP電話番号)	SIPサーバへの登録を解除したことを表します。



お知らせ

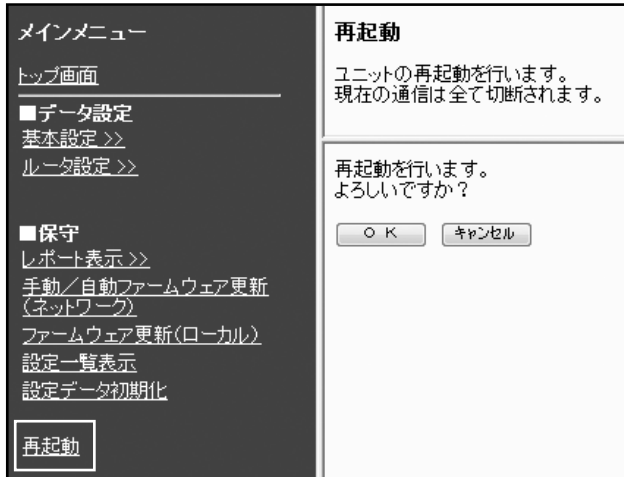
- 接続シーケンスによっては、一部ログが表示されないことがあります。
- その他のログについては、工事担当者にお問い合わせください。

再起動を行うには

本商品の設定を変更したあとに再起動を行うことで、設定内容を反映することができます。

1 メニューの保守より「再起動」をクリックします。

再起動の確認画面が表示されます。



2 「OK」ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックすると、「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」という確認メッセージが表示されます。

3 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。

本商品が再起動されます。

ワンポイント

- 再起動を中止するには
手順2、3で [キャンセル] をクリックします。

お願い

- 再起動が完了するまで、主装置の電源はOFFにしないでください。

お知らせ

- 通話中に再起動を行うと通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで約1分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。
- 再起動後、Webブラウザからの保守を行う場合には、1分以上経過後に行ってください。
- 本商品を再起動したときは、DHCPサーバを利用しているパソコンなどを再起動してください。

本商品のファームウェアを更新するには

本商品は定期的にサーバにアクセスし、最新のファームウェアのアップデートを実施します。自動ファームウェア更新の有効/無効、自動更新時刻などを「自動ファームウェア更新の設定をする」(●P88)で設定できます

1
本商品の概要

2
設定をする前に

3
設定をする

4
運用する

5
バージョンアップ
する

6
主な設定例

7
ご参考に

自動ファームウェア更新の設定をする

自動ファームウェア更新機能とは、本商品が定期的に当社サーバと通信を行い、最新ファームウェアを確認した場合に自動的にバージョンアップまたはお客様へ通知する機能です。ファームウェアとは本商品を動かすプログラム（ソフトウェア）のことで、次の2種類のファームウェアがあります。

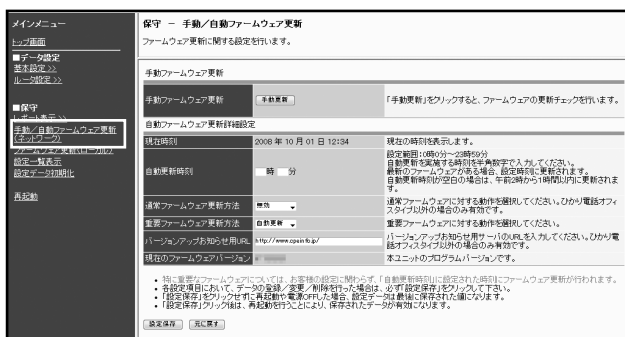
- ・ 通常ファームウェア：機能・性能を向上したファームウェア
- ・ 重要ファームウェア：特に重要な機能・性能を向上させたファームウェア

それぞれについてのバージョンアップの動作（方法）を、「通常ファームウェア更新方法」、「重要ファームウェア更新方法」で設定します。

1 Webブラウザを起動してメインメニューを表示します。

「設定をする」(P36) の手順1～3を行い、メインメニューを表示します。

2 「手動／自動ファームウェア更新」画面を表示するには、メニューの保守項目にある「手動／自動ファームウェア更新（ネットワーク）」をクリックします。



3 下記の内容に従い、自動ファームウェア更新の設定を行います。

項番	名称	説明	設定範囲	初期値
①	現在時刻	現在の時刻が表示されます。	—	—
②	自動更新時刻	更新方法が自動更新の場合に、自動的にバージョンアップを行う時刻を設定します。 新しいファームウェアがある場合、設定した時刻（設定されていない場合は、午前2時から1時間以内）に新しいファームウェアをダウンロードし、自動的に再起動を行います。	00:00～23:59	—
③	通常ファームウェア更新方法	通常ファームウェアに対する動作を選択します。	無効／ユーザ通知／自動更新	無効
④	重要ファームウェア更新方法	重要ファームウェアに対する動作を選択します。	無効／ユーザ通知／自動更新	自動更新
⑤	バージョンアップお知らせ用URL	バージョンアップお知らせ用サーバのアドレスを設定します。	最大128文字	http://www.cpeinfo.jp/
⑥	現在のファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンが表示されます。	—	—



ワンポイント

●ファームウェア更新方法について

①無効：

自動ファームウェア更新を行いません。

②ユーザ通知：

新しいファームウェアがある場合、本商品のWebブラウザトップ画面で確認することができます。Webブラウザからの操作によりダウンロード／更新を行い、手動で再起動を実行することで新しいファームウェアが有効となります。(P90)

③自動更新：

新しいファームウェアがある場合、自動更新時刻に設定された時刻（設定されていない場合は午前2時から1時間以内）に新しいファームウェアをダウンロードし、IP電話サービスによる通話をしていないときに自動的に再起動します。

●重要ファームウェアのバージョンアップを行わない場合、本来の機能・性能を発揮できない場合があります。

4

【設定保存】をクリックします。

STOP

お願い

- バージョンアップおしらせURLは、初期値のままご利用ください。変更すると自動バージョンアップ機能をご利用できなくなります。
- ファームウェア更新中は、絶対に下記の操作を行わないでください。故障の原因となることがあります。
 - *本商品を再起動する。
 - *本商品の「WANインタフェースの停止」をする。
 - *主装置の電源を切る。
- 再起動が完了するまで、主装置の電源はOFFにしないでください。



お知らせ

- 再起動が完了するまで約1分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

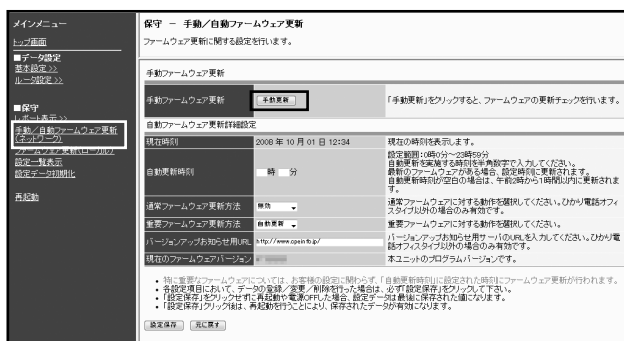
Webブラウザから手動で更新する

Webブラウザの設定画面から手動でファームウェアを更新することができます。

1 Webブラウザを起動してメインメニューを表示します。

「設定をする」(●P36) の手順1～3を行い、メインメニューを表示します。

2 [保守] の [手動/自動ファームウェア更新 (ネットワーク)] をクリックします。



3 [手動ファームウェア更新] の [手動更新] をクリックします。

4 [更新内容] をクリックします。

表示されるWebブラウザ画面に従い、ファームウェア更新の操作を行います。

最新のファームウェアがない場合は「新しい更新はありません。」と表示されます。これ以降の操作は、必要ありません。

5 本商品のメインメニューが表示されたら [再起動] をクリックします。

6 「再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックします。

7

「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックします。

本商品が再起動します。



ワンポイント

- 再起動を中止するには
手順6、7で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- 再起動が完了するまで、主装置の電源はOFFにしないでください。



お知らせ

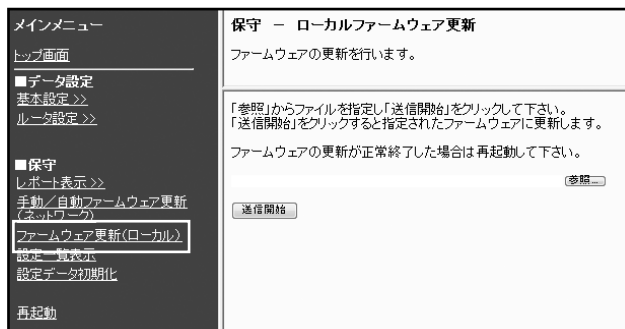
- 通話中に再起動を行うと通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで約1分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

ローカルでファームウェアを更新する

パソコン上のファームウェアを使用して、Webブラウザの設定画面からファームウェアを更新することができます。

1 Webブラウザを起動してメインメニューを表示します。

「設定をする」(●P36) の手順1 ~ 3 を行い、メインメニューを表示します。

2 [保守] の [ファームウェア更新 (ローカル)] をクリックします。**3** [参照] をクリックし、パソコン上のファームウェアを選択します。**4** [送信開始] をクリックします。**5** 「ファームウェア更新を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックします。**6** 「ファームウェアの更新が終了しました。更新を有効にするには再起動を行ってください。」と表示されたら [再起動] をクリックします。

7 「再起動を行います。よろしいですか?」と表示されたら [OK] をクリックします。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか?」と表示されたら [OK] をクリックします。

本商品が再起動します。



ワンポイント

- 再起動を中止するには
手順7、8で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- 再起動が完了するまで、主装置の電源はOFFにしないでください。



お知らせ

- 通話中に再起動を行うと通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで約1分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

■以下の項目を設定してください

設定方法については「3. 設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●アドレス変換設定－NAT設定

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●ルーティング設定－デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

●DNS設定－ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	自動取得
3	自動取得先インタフェース	INTERNET



お知らせ

●インターネット接続を行う場合、本商品のDNS設定によりパソコンに対してDNSサーバアドレスの設定を行う必要があります。

- * ProxyDNS機能「有効」の場合 ：本商品のIPアドレスを設定する
- * ProxyDNS機能「無効」の場合 ：プロバイダから通知されたDNSサーバアドレスを設定する

インターネットとフレッツ・スクウェアネクストを同時に利用する設定例

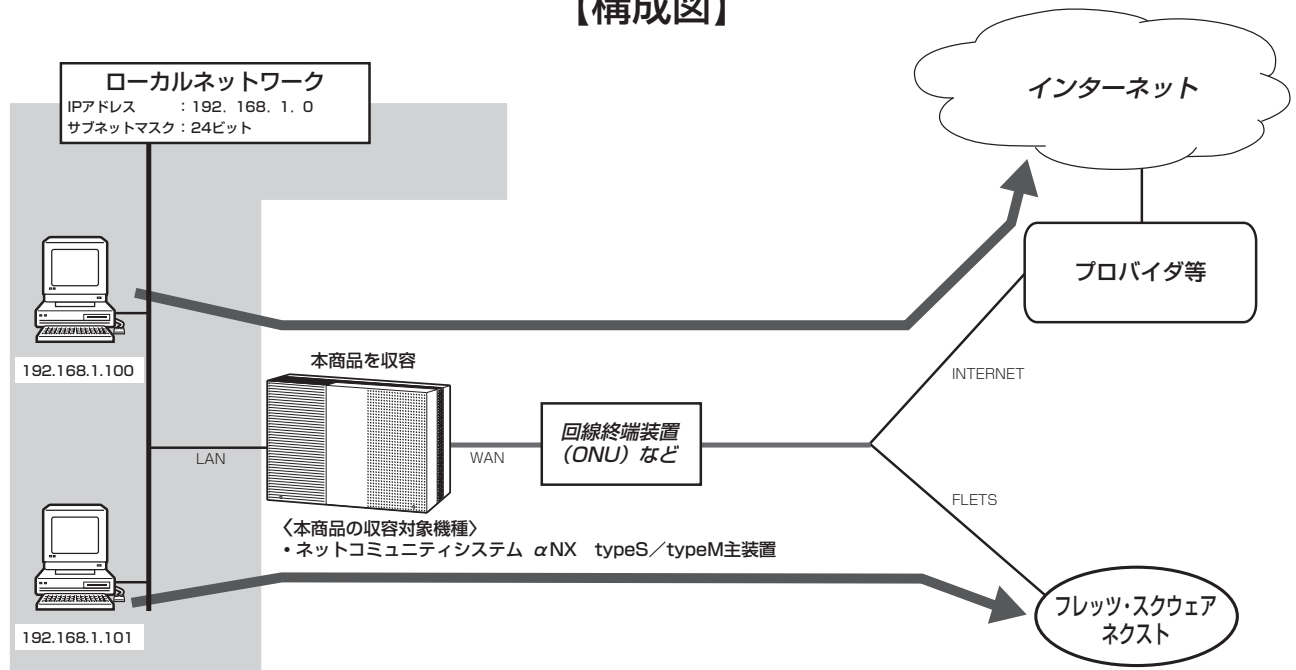
ドメインルーティング設定を利用し、インターネットとフレッツ・スクウェアネクストへ同時に接続することができます。

■設定について

インターネット接続とフレッツ・スクウェアネクスト接続の設定を行います。
 インターネット接続とフレッツ・スクウェアネクスト接続は、WANインタフェース設定で行います。
 ドメインルーティングにフレッツ・スクウェアネクストへのルーティングを設定します。
 ProxyDNS設定を「有効」に設定します。

- ローカルネットワークに接続されているPCから、インターネットとフレッツ・スクウェアネクストの両方へ接続を行います。

【構成図】



- 本商品には次の項目の設定が必要です。

1. WANインタフェース設定 (●P40)
2. アドレス変換設定 (●P48)
3. ルーティング設定 (●P54)
4. ProxyDNS設定 (●P72)

「フレッツ・スクウェアネクスト」とは、フレッツアクセスサービス (フレッツ 光ネクスト) ご利用のお客様専用のサイトです。
 「フレッツ・スクウェアネクスト」はNTT東日本/NTT西日本の地域IP網内に設置したサーバにより提供しており、インターネット上では公開されていません。このためフレッツ・スクウェアネクストに接続する場合には、インターネットプロバイダへの接続ではなく、フレッツ・スクウェアネクスト専用の接続設定が必要になります。

お知らせ

- ドメインルーティングでフレッツ・スクウェアネクストに接続した場合、一部のサービスが利用できない場合があります。すべてのサービスを利用する場合は、ブリッジ機能を有効として、PCから直接フレッツ・スクウェアネクストに接続してください。
- お使いのパソコンや本商品にDNS問い合わせ結果が保存されている場合は、ドメインルーティングが正常に動作しないことがあります。このような場合は、以下の操作によりDNS問い合わせ結果をクリアしてください。
 - ・パソコンを再起動する
 - ・本商品のDNSキャッシュテーブルをクリアする (●P84)
- IPv6 をご利用いただけないパソコンをご利用の場合は、サービス情報や速度測定などのサポートメニューを提供するサイトへの接続となります。なお、NTT 西日本エリアではIPv6 のご利用可否に関わらず、サポートメニューを提供する情報サイトへの接続となります。(2010年3月現在)

■以下の項目を設定してください。

設定については「3.設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（フレッツ・スクウェアネクストに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	NTT東日本：guest@v4flets-east.jp NTT西日本：flets@v4flets-west.jp
5	接続パスワード	NTT東日本：guest NTT西日本：flets

●アドレス変換設定-NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定-NAT設定（フレッツ・スクウェアネクストに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●ブリッジ設定

No	データ名称	設定するデータ
1	IPv6ブリッジ接続	する（フレッツ 光ネクスト）

●ルーティング設定-デフォルトルート設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

●ルーティング設定-ドメインルーティング設定（フレッツ・スクウェアネクストに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	ドメイン名	NTT東日本：v4flets-east.jp NTT西日本：v4flets-west.jp
2	経路先	FLETS
3	DNSサーバ	—
4	ホップ数	1

●DNS設定-ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	自動取得
3	自動取得先インタフェース	INTERNET

インターネットとフレッツ・スクウェアを同時に利用する設定例

ドメインルーティング設定を利用し、インターネットとフレッツ・スクウェアへ同時に接続することができます。

■設定について

インターネット接続とフレッツ・スクウェア接続の設定を行います。

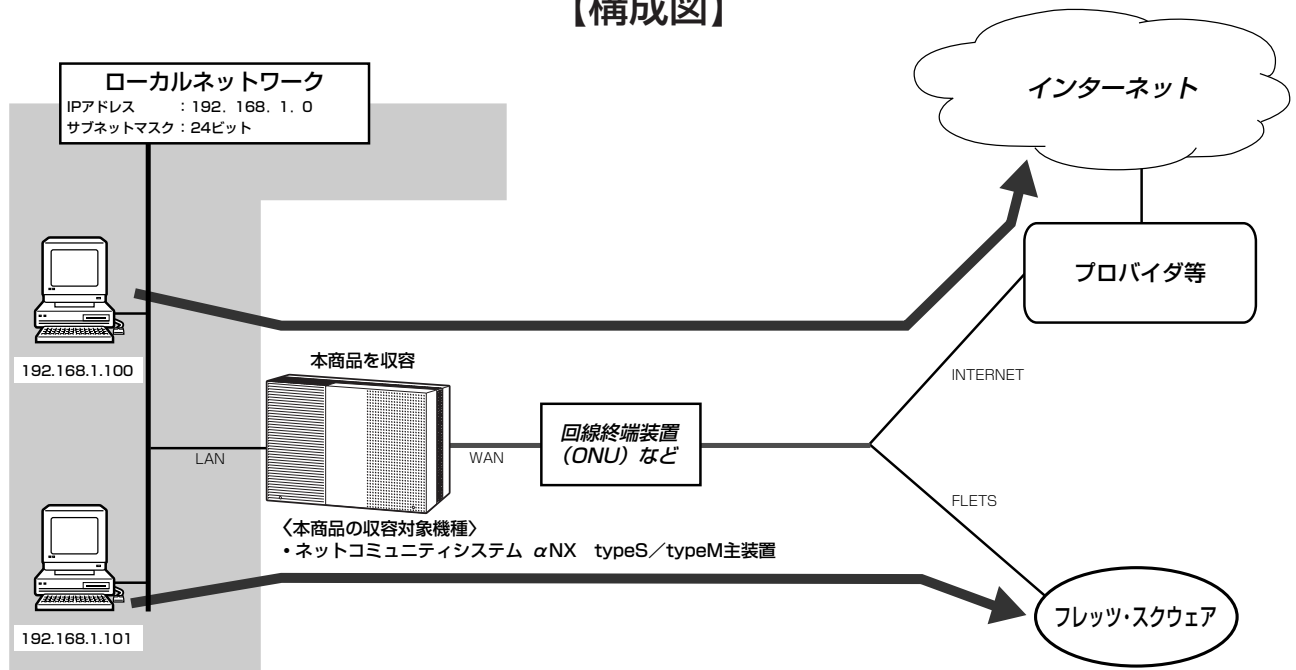
インターネット接続とフレッツ・スクウェア接続は、WANインタフェース設定で行います。

ドメインルーティングにフレッツ・スクウェアへのルーティングを設定します。

ProxyDNS設定を「有効」に設定します。

- ローカルネットワークに接続されているPCから、インターネットとフレッツ・スクウェアの両方へ接続を行います。

【構成図】



- 本商品には次の項目の設定が必要です。

- 1.WANインタフェース設定 (●P40)
- 2.アドレス変換設定 (●P48)
- 3.ルーティング設定 (●P54)
- 4.ProxyDNS設定 (●P72)

「フレッツ・スクウェア」とは

フレッツアクセスサービス (Bフレッツ/フレッツ・光プレミアム/フレッツ・ADSL/フレッツ・ISDN) ご利用のお客様専用のサイトです。

「フレッツ・スクウェア」はNTT東日本/NTT西日本の地域IP網内に設置したサーバにより提供しており、インターネット上では公開されていません。このためフレッツ・スクウェアに接続する場合には、インターネットプロバイダへの接続ではなく、フレッツ・スクウェア専用の接続設定が必要になります。

お知らせ

- ドメインルーティングでフレッツ・スクウェアに接続した場合、一部のサービスが利用できない場合があります。すべてのサービスを利用する場合は、ブリッジ機能を有効として、PCから直接フレッツ・スクウェアに接続してください。
- お使いのパソコンや本商品にDNS問い合わせ結果が保存されている場合は、ドメインルーティングが正常に動作しないことがあります。このような場合は、以下の操作によりDNS問い合わせ結果をクリアしてください。
 - ・パソコンを再起動する
 - ・本商品のDNSキャッシュテーブルをクリアする (●P84)

■以下の項目を設定してください。

設定については「3.設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	NTT東日本：guest@flets NTT西日本：flets@flets
5	接続パスワード	NTT東日本：guest NTT西日本：flets

●アドレス変換設定-NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定-NAT設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	FLETS
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●ブリッジ設定

No	データ名称	設定するデータ
1	IPv6ブリッジ接続	する

●ルーティング設定-デフォルトルート設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

●ルーティング設定-ドメインルーティング設定（フレッツ・スクウェアに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	ドメイン名	flets
2	経路先	FLETS
3	DNSサーバ	—
4	ホップ数	1

●DNS設定-ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	自動取得
3	自動取得先インタフェース	INTERNET

ブリッジ機能を使用してフレッツ・スクウェアまたはフレッツ・スクウェアネクストを利用する設定例

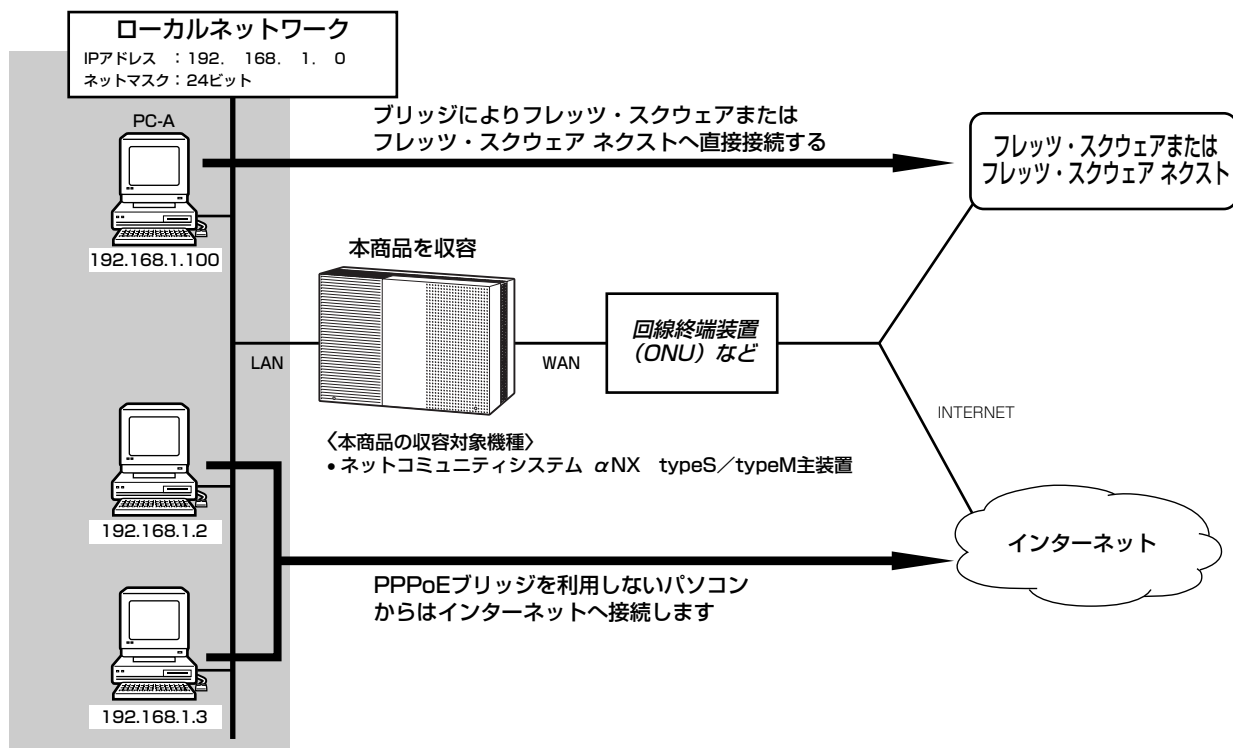
ブリッジ接続を利用し、LANに接続されているパソコンから直接フレッツ・スクウェアまたはフレッツ・スクウェアネクストへ接続させます。
 インタフェース設定からWANインタフェースを設定することにより、直接PPPoE接続されていないパソコンからインターネットへ接続できます。

■設定について

インターネット接続とブリッジの設定を行います。
 インターネット接続は、WANインタフェース設定で行います。
 ブリッジ接続は、ブリッジ設定で行います。
 ただし、DNSサーバアドレスはプロバイダ等から指定されたIPアドレスを使用します。

- ローカルネットワークに接続されているPC-Aからブリッジ接続によりフレッツ・スクウェアまたはフレッツ・スクウェアネクストへ接続を行います。その他のパソコンからは、インターネットへ接続します。
- PC-Aからフレッツ接続ツールを利用した接続ができます。

【構成図】



●本商品には次の項目の設定が必要です。

- 1.WANインタフェース設定 (☛P40)
- 2.ブリッジ設定 (☛P46)
- 3.ルーティング設定 (☛P54)
- 4.ProxyDNS設定 (☛P72)



お知らせ

- PPPoEブリッジによりフレッツ・スクウェアまたはフレッツ・スクウェアネクストへ直接接続されているパソコンからは、インターネットを同時に利用できないことがあります。
- パソコンからのPPPoEによる接続プロバイダと本商品の接続プロバイダが同じアカウントに設定されていると、同時に接続することができないことがあります。ご注意ください。

■以下の項目を設定してください。

設定については「3.設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●WANインタフェース設定－PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	プロバイダから通知された認証方式
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●ブリッジ設定

No	データ名称	設定するデータ
1	PPPoEブリッジ接続	する
2	IPv6ブリッジ接続	する ただし、フレッツ 光ネクストをご利用の場合は、以下の設定を選択してください。 する（フレッツ 光ネクスト）

●ルーティング設定－デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
1	経路先	INTERNET
2	ホップ数	1

●DNS設定－ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ProxyDNS機能	有効
2	問い合わせ先取得方法	固定IPアドレス
3	問い合わせ先プライマリDNSサーバアドレス	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレス
4	問い合わせ先セカンダリDNSサーバアドレス	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレス

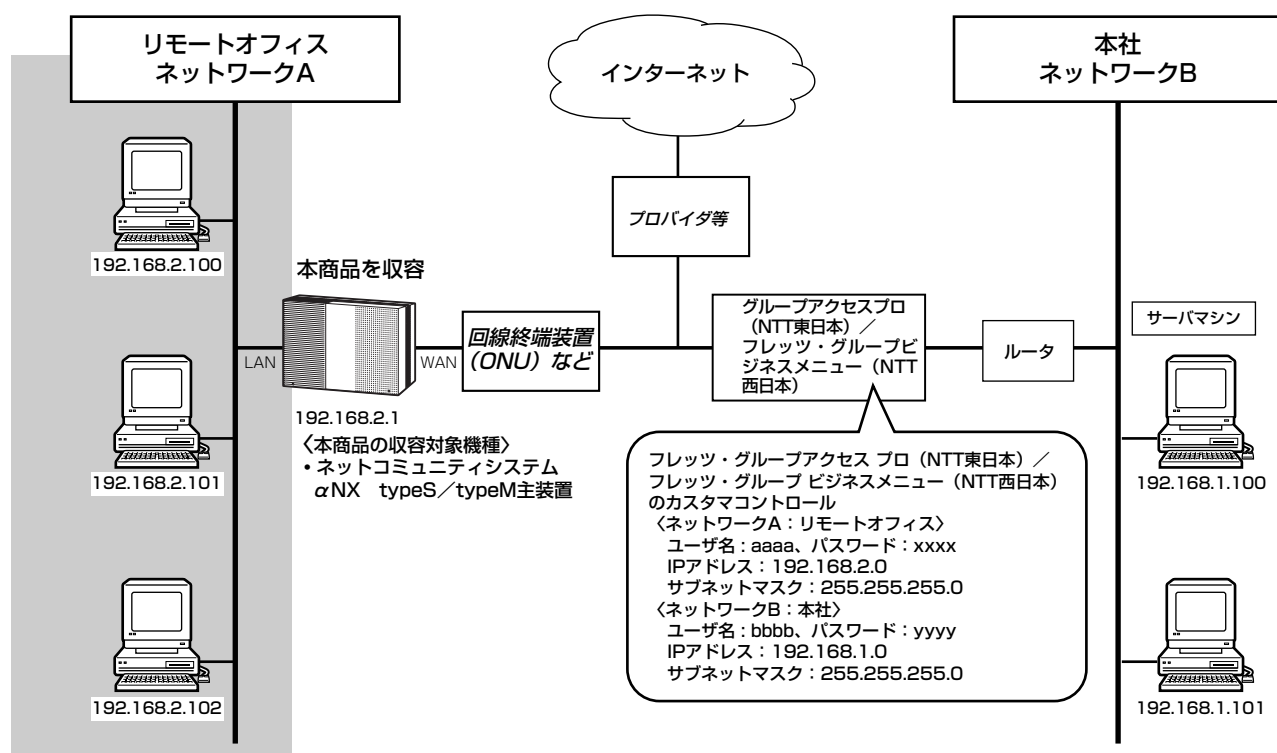
フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) / フレッツ・グループ (NTT西日本) 利用時の設定例

ここでは、フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) / フレッツ・グループ (NTT西日本) の利用によるフレッツ・シリーズご契約者間でグループを構成したグループ内通信の設定例を示します。各サービスプランのIPアドレス付与方法は以下の通りです。

事業者	サービスプラン	IPアドレス付与方法
NTT東日本	フレッツ・グループアクセス プロ	LAN型 / 端末型
	フレッツ・グループアクセス ライト	端末型
NTT西日本	フレッツ・グループ ビジネスメニュー	LAN型 / 端末型
	フレッツ・グループ ベーシックメニュー	端末型

- 「端末型払い出し」によりIPアドレスを付与する場合は、「フレッツ 光ネクスト/Bフレッツ/フレッツ・光プレミアム/フレッツ・ADSL接続設定例」(P94)を参照ください。

【構成図】



- フレッツ・グループアクセス プロ (NTT東日本) / フレッツ・グループ ビジネスメニュー (NTT西日本) での接続にフレッツ 光ネクストまたはBフレッツ、フレッツ・光プレミアム、フレッツ・ADSLを利用し「LAN型払い出し」によりIPアドレスを付与する場合は、次の項目の設定が必要です。

1. LANインタフェース設定 (P38)
2. WANインタフェース設定 (P40)
3. アドレス変換設定 (P48)
4. ルーティング設定 (P54)

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「3.設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●LANインタフェース設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	REMOTE-A
2	IPアドレス	192.168.2.1
3	サブネットマスク	24

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

●WANインタフェース設定-PPPoE設定（フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）に対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	FGA
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	aaaa@グループ名.gapro.flets（フレッツ・グループアクセスの場合） aaaa@グループ識別子.os.a（フレッツ・グループの場合）
5	接続パスワード	xxxx

●アドレス変換設定-NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定-NAT設定（フレッツ・グループアクセス（NTT東日本）／フレッツ・グループ（NTT西日本）に対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	インタフェース名	FGA
2	IPアドレス変換方式	しない

●ルーティング設定－デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	ルータ機能	有効
2	ダイナミックルーティング機能	無効
3	ルーティング情報送付	無効
4	経路先	INTERNET
5	経路先IPアドレス	－
6	ホップ数	1

●ルーティング設定－スタティックIPルーティング設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの本商品
1	IPアドレス	192.168.1.0
2	サブネットマスク	24
3	経路先	FGA
4	経路先IPアドレス	－
5	ホップ数	1



ワンポイント

●カスタマコントロール設定を行うには

カスタマコントロール用の接続設定が必要になりますので、一時的に本商品を回線終端装置 (ONU)、加入者網終端装置 (CTU)、またはADSLモデムから外して、設定用のパソコンを回線終端装置 (ONU)、加入者網終端装置 (CTU)、またはADSLモデムに直接接続して設定してください。詳しくは、フレッツ・グループアクセスプロのカスタマコントロール操作マニュアル (NTT東日本) / フレッツ・グループ ユーザーズマニュアル (NTT西日本) を参照してください。



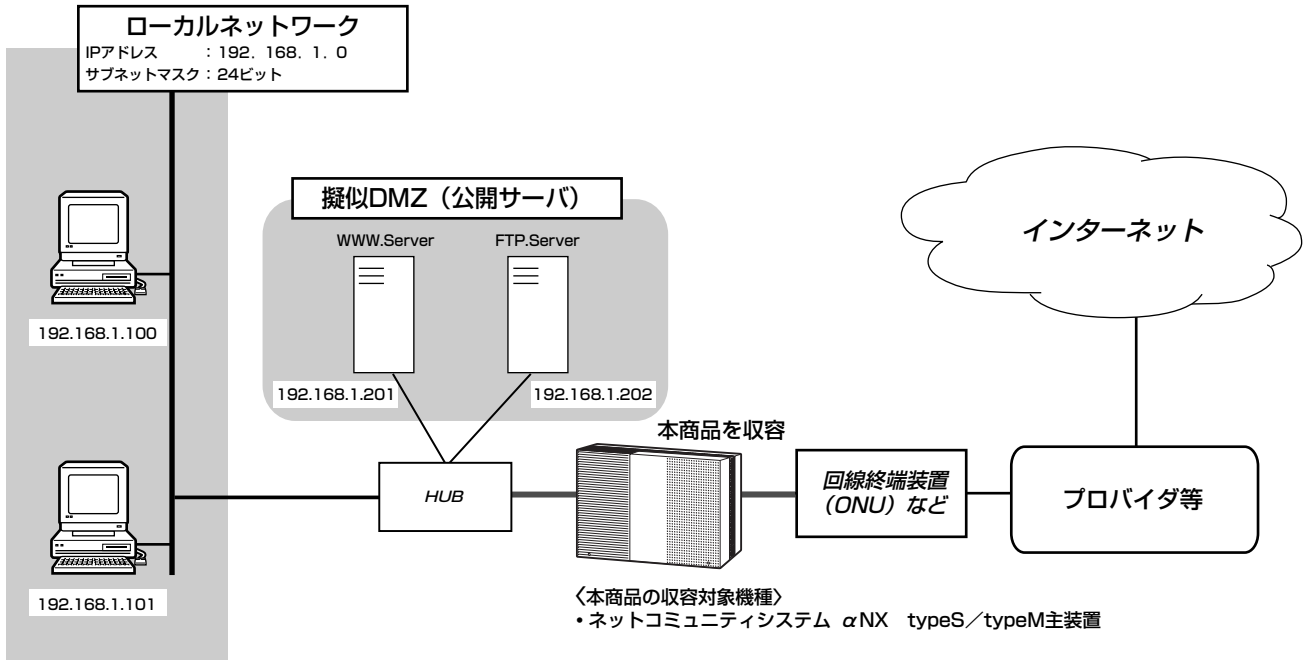
お知らせ

- Bフレッツのビジネスタイプは、フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) / フレッツ・グループ (NTT西日本) をご利用できません。
- グループ内のIP通信は、共有フォルダの利用によるファイル共有やファイルサーバへのアクセス、Webサーバを利用した情報共有等が可能となります。(ご利用者の環境や設定により異なります) 本サービスで使用できる通信は、TCP/IPとなります。
- Windowsのファイル共有を利用になる場合は、本商品のNetBIOSフィルタリング設定を削除してください。

擬似的なDMZの設定例

静的NAPT機能を使用し、ローカルネットワークに擬似的なDMZを設置した場合の設定例を示します。
 擬似的なDMZを設置することにより、サーバを公開することができます。プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスへアクセスすることにより、インターネット側から公開サーバへアクセスすることができます。

【構成図】



●DMZを設けて公開サーバを設置する場合は、次の項目の設定が必要です。

- 1.WANインタフェース設定 (●P40)
- 2.アドレス変換設定 (●P48)
- 3.ルーティング設定 (●P54)

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「3.設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

●WANインタフェース設定-PPPoE設定 (インターネットに対する設定)

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	セッション	有効
3	認証方式	PAP
4	接続ユーザ名	プロバイダから割り当てられたユーザ名
5	接続パスワード	プロバイダから割り当てられたパスワード

1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップ

6 主な設定例

7 ご参考に

●アドレス変換設定－NAT設定（インターネットに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	インタフェース名	INTERNET
2	IPアドレス変換方式	端末型変換

●アドレス変換設定－静的NAPT設定（WWW Serverに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	プロトコル	TCP
2	開始ポート番号	80
3	終了ポート番号	80
4	IPアドレス	192.168.1.201

●アドレス変換設定－静的NAPT設定（FTP Serverに対する設定）

No	データ名称	設定するデータ
1	プロトコル	TCP
2	開始ポート番号	20
3	終了ポート番号	21
4	IPアドレス	192.168.1.202

●ルーティング設定－デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
1	ルータ機能	有効
2	ダイナミックルーティング機能	無効
3	ルーティング情報送付	無効
4	経路先	INTERNET
5	経路先IPアドレス	－
6	ホップ数	1

DHCPサーバ機能によるIPアドレスの自動割り付けを行う場合の設定例を示します。

■設定について

DHCPサーバ機能により、ネットワーク端末に対してIPアドレスの動的割り付けを行うことができます。ネットワーク端末は、IPアドレスを自動的に割り付ける設定にすることで、本商品に設定されているデータによりIPアドレスを割り付けます。

DHCPサーバ機能によるIPアドレスの割り付けは、設定されているIPアドレスの範囲から割り付ける方法と、静的に割り付ける方法があります。

■以下の項目を設定してください。

設定方法については「3. 設定をする」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、初期値のままご利用ください。

※DHCPサーバ機能により、192.168.1.201～192.168.1.210までの10個を割り付けるIPアドレスに設定する場合は、次のようになります。

●DHCPサーバ設定 (P66)

No	データ名称	設定するデータ
1	DHCPサーバ機能	有効
2	割り付け先頭IPアドレス	192.168.1.201
3	割り付け数	10
4	リース時間	4

※静的にIPアドレスを割り付けるには、次のように設定します。

ホスト名：HOSTにIPアドレス：192.168.1.220を割り付けます。

●固定割り付けテーブル設定 (P68)

No	データ名称	設定するデータ
1	IPアドレス	192.168.1.220
2	ホスト名	HOST
3	MACアドレス	00-20-C1-12-34-56 (例)



お知らせ

- 端末のMACアドレスは、接続されているLANカード／ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード／ボードの取扱説明書を参照してください。
- DHCPサーバ機能によるIPアドレスの割り付けは、LANインタフェース側でのサポートとなります。
- 固定割り付けテーブルの設定は、ホスト名およびMACアドレスの設定によりIPアドレスを静的に割り付けます。ホスト名だけの登録では割り付けが重複することがあります。
- すでにDHCPサーバ装置がネットワークに接続されている場合は、本商品のDHCPサーバ機能を「無効」に設定し、DHCPサーバ装置側で一括管理してください。

■IP電話サービス（ひかり電話／050IP電話／システム間接続サービス）の利用

- IP電話サービスをご利用いただくためには、プロバイダ等との契約および本商品への電話関連の設定が必要です。本商品の電話関連の設定は、工事担当者が行います。
なお、本商品がインターネットに接続されていない場合やプロバイダ等のサーバと通信ができない場合、IP電話サービスを使用したサービスはご利用できません。
- IP電話サービスはプロバイダ等が提供するサービスです。IP電話サービスのサービス内容や利用料金等を、ご契約されるプロバイダ等に必ずご確認ください。
- IP電話サービスとして通話した場合の通話料金はプロバイダ等から請求されます。また、IP電話サービスとして通話した場合に相手先に通知できる発信者番号は、プロバイダ等から付与された電話番号です。
- IP電話サービスとして接続できない通話（IP電話サービス対象外の番号をダイヤルした場合等）は、主装置の設定により加入電話／INSネットを利用して自動的に迂回発信できます。迂回発信される条件はご契約されたIP電話サービスによって異なりますので、プロバイダ等にご確認ください。
- IP電話サービスの通話品質は、下記のような場合に劣化することがあります。
 - 契約回線（フレッツ 光ネクスト／B フレッツ／フレッツ・光プレミアム／フレッツ・ADSL）の接続状況によって十分な帯域が確保できない場合
 - インターネットで十分な帯域が確保できない場合
 - 本商品に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- IP電話サービスでファクスやアナログモデム通信を行った場合、あるいは音声ガイド等で通話中にプッシュ信号の入力が必要な場合は、通信に失敗することがあります。通信が失敗した場合でも、失敗するまでの通信に対して使用料金ががかかります。確実に通信したい場合には、加入電話／INS ネットをご利用ください。
- 加入電話／INS ネット回線に着信があった場合、ADSL 回線による接続が途切れることがあります。ADSL 回線による接続が途切れると、IP 電話通話中の場合は通話が切断されます。
- IP電話サービスでの通話中に本商品の電源が切れた、もしくは再起動中は、通話が切断されます。
- フレッツ 光ネクストのひかり電話オフィスタイプまたはひかり電話オフィスA(エース)をご利用の場合、本商品のLANポート下部でMEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などを使用することができます。
- 本商品のLANポート下部でMEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などにて映像通信もしくは音声通話する場合、主装置には回線の使用状況を通知いたしません。MEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などをご利用の場合、映像通信もしくは音声通話が利用できないことがあります。
- 本商品のLANポート下部でMEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などをご利用の時に本商品が再起動した場合、本商品の再起動完了後にMEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などを本商品に登録し直す必要があります。MEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などの操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- 本商品のLANポート下部でMEETING BOX、フレッツフォン（VP2000/VP1500/VP1000）などをご利用の場合、割り当てられる内線番号は、20または21です。

停電になったときは

ご利用中に停電になった場合は以下のことにご注意ください。

●停電時には以下のことにご注意ください。

主装置にバックアップ装置を接続していない、または、バックアップ装置による動作ができなくなったとき	インターネット接続	ご利用になれません	
	IP電話サービス	ご利用になれません	
	本商品の設定データ保存中	LAN側IPアドレス	お買い求め時のIPアドレス（192.168.1.1）に変更される場合があります 設定変更前または設定変更後のIPアドレスで本商品にアクセスできない場合は、電話機でIPアドレスを確認してください（●P35）
		その他の設定	設定データはお買い求め時の初期値に変更される場合があります
バックアップ装置により主装置のみが動作中	インターネット接続	ご利用になれません	
	IP電話サービス	ご利用になれません	
	本商品の設定データ保存中	通電時と同様に保存されます	
バックアップ装置により主装置、モデム、LAN側に接続されたHUB、パソコンが動作中	インターネット接続	通電時と同様にご利用になれます	
	IP電話サービス	ご利用になれません	
	本商品の設定データ保存中	通電時と同様に保存されます	

1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップする

6 主な設定例

7 ご参考に

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、修理を依頼する前に次の点をご確認ください。

こんなときは	原因	確認してください	参照ページ
インターネットにアクセスできない	主装置の電源が入っていない	主装置の電源スイッチをオンにしてください	—
	主装置の電源コードが抜けている	電源コードを正しく接続してください	—
	停電中	停電が復旧するまでご利用になれません	☛P109
	パソコンのネットワーク設定が間違っている	パソコンのネットワーク設定を確認してください	☛P20 ☛P26 ☛P32
	本商品のルータ設定が間違っている	本商品のルータ設定を確認してください	☛P35
IP電話サービスが利用できない	WAN側との通信が切断されている	WANインタフェースの手動操作により接続し直すか、または、本商品の再起動を行ってください	☛P82 ☛P86
	設定されたIP電話回線を使用していない	IP電話回線が設定されている外線ボタンを使用してください	—
	その他の原因	主装置の取扱説明書をご確認ください	—

以下に本文中の用語の説明を行います。

数字

- 10BASE-T** …… Ethernet の通信方式の1 つで、ツイストペアケーブルを使い、10Mbpsの伝送速度です。
- 100BASE-TX** …… Ethernet の通信方式の1 つで、ツイストペアケーブルを使い、100Mbpsの伝送速度です。
- 1000BASE-T** …… Ethernet の通信方式の1 つで、ツイストペアケーブルを使い、1Gbps (1000Mbps) の伝送速度です。

アルファベット

- ADSL** …… 従来使用しているアナログ電話回線を利用して、インターネットの常時接続環境を提供する方式です。音声通話で使われていない周波数帯域を利用するので、現在使用している1本の電話回線で、電話とインターネットの両方を同時に利用することができます。通信方向(上り/下り)によって、速度が異なる特徴があります。
- ASCII文字** …… 米国規格協会(ANSI)が制定した標準符号。ASCIIは7ビットで構成され、制御文字、特殊文字、数字、英大・小文字の128種類の文字を表現します。
- Bフレッツ** …… 接続回線に光ファイバを利用した通信サービスです。最大100Mbpsの高速インターネット接続が可能です。
- CHAP (Challenge Authentication Protocol) ……**
PAPと同様に認証を行うプロトコルですが、パスワードを通知するときにパスワードを暗号化して送ることでパスワードの盗視を防ぐため、よりセキュリティが高いプロトコルです。
- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol<RFC2131>) ……**
DHCPは、IPアドレスやDNSサーバアドレスなど、ネットワーク端末の設定情報を動的に割り付けるプロトコルです。
- DNS (Domain Name System) ……**
DNSは、ネットワークのIPアドレスとドメイン名を解決するためのシステムで、ドメイン名から対応するIPアドレスへの変換/逆変換を行います。
- IPCP** …… Internet Protocol Control Protocolの略。
- IPv6** …… Internet Protocol Version 6の略で、アドレス空間増加やセキュリティ機能追加等に対応した次世代のインターネットプロトコルです。
- IPアドレス** …… TCP/IPで通信をする場合に、ネットワーク上の機器を特定するために使用される番号を指します。IPアドレスは、4バイトのデータからなり、インターネットに接続中のすべての機器に個別のIPアドレスが割り当てられています。
- IP電話** …… IPネットワークを利用して通話する電話のことを表します。
- IPプロトコル** …… 取扱説明書で使用しているIPプロトコルまたはIPプロトコルタイプは、IPに関連するパケットの総称として使用しています。特にプロトコルとして存在するわけではありません。
- IPマスカレード** …… IPアドレス変換方式の1つで、ローカルネットワークに接続された複数の端末のIPアドレスを、1つのグローバルIPアドレスに変換することにより、複数の端末からインターネットへ接続することができます。また、IPアドレスの変換を行うことで、ローカルネットワークを外部から隠ぺいすることができるため、セキュリティ効果が得られます。

LCPLink Control Protocolの略。

MACアドレスMACアドレスは、イーサネットに接続時に使用される物理的なアドレスで、データ通信時に送信先／送信元アドレスで使用されるものです。MACアドレスとイーサネットアドレスは同義語です。

MACアドレスは6バイトからなり、各LAN端末ごとにユニークな値が割り当てられています。(MACアドレスは、LANのインタフェースに世界で1つ割り当てられる番号です。また、変更も不可能です。)

NAT (The IP Network Address Translator)

NATは、RFC1631で提案されているIPアドレスの変換方式で、インターネットなどで使用するグローバルなIPアドレスとローカルなIPアドレスを変換する方式について記載されています。

NAPT (Network Address Port Translation)

IPアドレス変換方式の1つで、IPマスカレードとほぼ同じ機能です。

PAP (Password Authentication Protocol)

パスワード認証プロトコルで、ネットワークアクセス時にパスワードにより認証を行い、不正なアクセスを防ぐためのプロトコルです。

PINGPINGとはIPアドレスを持つ相手の装置が現在ネットワークに接続されているかを確認するためのコマンドを指します。PINGコマンドではICMPのエコー要求／応答機能を利用して相手を確認します。

PPP (Point to Point Protocol<RFC1661>)

公衆網などのシリアル回線においてデータ転送を行う場合の標準化プロトコルです。

PPPoE (PPPoE over Ethernet)

インターネットへのダイヤルアップ接続で最も一般的に使われているPPP機能をイーサネット上で使うためのプロトコルです。

ProxyDNSネットワーク端末からのDNS問い合わせをDNSサーバへ中継します。また中継されたデータのキャッシュを行うことで、DNS問い合わせに対して代理で応答することができます。

PSTN (Public Switched Telephone Networks)

「公衆電話回線網」と訳される一般加入電話回線網のことです。

RFC (Request for Comments)

IETF (Internet Engineering Task Force) がとりまとめている文章のことを指し、TCP/IPやPPPなどの規格としても知られています。

RIP (Routing Information Protocol)

IPに関するルーティングテーブルをルータ間でやりとりするプロトコルです。このプロトコルを使用することにより、ルータ間でルーティング情報を更新し、更新したテーブルにもとづき、ルーティングを行います。

UPnP (Universal Plug and Play)

パソコンや周辺機器、家電製品などを簡単に接続して、便利に使えるようにしようという規格の1つです。

もともとマイクロソフト社が提唱したもので、現在は「Universal Plug and Play フォーラム」という団体が規格作りを進めています。

五十音

【ア行】

イーサネット ……1970年代に米国ゼロックス社が開発し、現在では代表的なLANの規格の1つです。インターネットの標準化組織であるIEEE802委員会が標準化した802.3CSMA/CDとイーサネットとは同義語として扱われることがあります。

イーサネットタイプ ……イーサネットフレームにおける2バイトのデータで、上位レイヤのプロトコル種別を指します。

インターネット ……インターネットとは、世界150か国以上にまたがり企業や学術施設、商用ネットワークなどを相互に結んだ世界最大のネットワークです。

【サ行】

サブネットマスク ……サブネットマスクは、IPアドレスのネットワーク部分を識別するためのマスクを表し、IPアドレスの先頭ビットからのビット数をネットワーク部分と判断します。また取扱説明書では、フィルタリングなどで受信したIPアドレスを比較するビットとしてサブネットマスクを使用している場合もあります。

シフトJIS (シフトJISコード) ……漢字コードを表すコード体系の1つで、MS-DOS、Windows、OS/2など、多くのパソコンOSに採用されています。

静的NAPT ……静的NAPTとは、IPアドレス変換機能を利用時に、ポート番号から接続するローカルネットワーク端末へ一意に割り付けを行う機能です。この場合、指定されたポート番号のIPパケットは、すべて対応するローカルネットワーク端末へ転送されます。

【ハ行】

バージョンアップ ……最新のプログラムをダウンロードすることにより、最新の機能をご利用になれます。

ハブ (HUB) ……ハブはLANに接続させる中継器としての役割を持ち、複数のLANを収容することによりネットワークを構築することができます。また、ハブはRJ45のポートを複数収容し、ネットワーク機器とスター型で接続します。

フィルタリング ……送信/受信されるパケットの内容を判断し、パケットを通過させる/破棄するを決定することです。

フォワーディング ……送信するまたは受信したパケットを通過させることを指します。

- フレッツ・ADSL** …………… 現在お使いの加入電話回線で高速なインターネット接続を提供するサービスです。フレッツ・ADSLのサービスには、既設の加入電話回線を利用する場合と、フレッツ・ADSL専用の回線を新設する場合があります、ご利用形態に合わせて選択することができます。
- フレッツ 光ネクスト**…………… 接続回線に光ファイバを利用した次世代ネットワークの通信サービスです。最大1Gbpsの高速インターネット接続が可能です。
- フレッツ・光プレミアム** ……… 接続回線に光ファイバを利用した通信サービスです。最大100Mbpsの高速インターネット接続が可能です。
- プロトコルタイプ** …………… 取扱説明書で使用しているプロトコルタイプという言葉は、IPやNetWare、AppleTalkなどの各プロトコルの種別を表しています。
- プロバイダ**…………… 商用インターネットサービスプロバイダ（ISP）のこと。インターネットへの接続を有償で提供する接続サービス事業者です。
- ホップ数** …………… 宛先までに通過するルータの数を表します。

アルファベット

DHCPサーバ設定	66
IP電話サービスについて	108
LANインタフェース設定	38
ProxyDNS設定	72
UPnP設定	45
WAN/VoIPの起動・停止	82
WANインタフェース設定	40
Webブラウザの設定	33
Windows 7	
インターネットプロパティの設定	15
ネットワークの設定	17
ネットワークの設定を確認する	20
Windows Vista	
インターネットプロパティの設定	21
ネットワークの設定	23
ネットワークの設定を確認する	26
Windows XP	
インターネットプロパティの設定	27
ネットワークの設定	29
ネットワークの設定を確認する	32

五十音

【ア行】

アドレス変換設定	48
運用時に利用できる操作	81

【カ行】

故障かな?と思ったら	110
固定割り付けテーブル設定	68

【サ行】

再起動	86
仕様	117
設定	
DHCPサーバ設定	66
LANインタフェース設定	38
ProxyDNS設定	72
UPnP設定	45
WANインタフェース設定	40
アドレス変換設定	48
固定割り付けテーブル設定	68
フィルタリング設定	60
ブリッジ設定	46
ホストテーブル設定	74
ユーザ用アカウント設定	78
リンク設定	37
ルーティング設定	54
設定一覧表示	79
設定データを初期化する	80
設定方法について	35

設定例

- DHCPサーバ機能によるIPアドレスの
自動割り付け設定例……………107
- インターネットとフレッツ・スクウェアを
同時に利用する設定例……………98
- インターネットとフレッツ・スクウェア
ネクストを同時に利用する設定例……………96
- 擬似的なDMZの設定例……………105
- ブリッジ機能を使用して
フレッツ・スクウェアまたは
フレッツ・スクウェア ネクストを
利用する設定例……………100
- フレッツ・グループアクセス (NTT東日本) /
フレッツ・グループ (NTT西日本)
利用時の設定例……………102
- フレッツ 光ネクスト / Bフレッツ /
フレッツ・光プレミアム /
フレッツ・ADSL接続設定例……………94

【タ行】

- 停電になったときは……………109
- 特長……………11

【ハ行】

バージョンアップ

- Webブラウザから手動で更新する……………90
- 自動ファームウェア更新の設定をする……………88
- ローカルでファームウェアを更新する……………92

パソコンの設定

- Windows 7……………15
- Windows Vista……………21
- Windows XP……………27

- フィルタリング設定……………60
- ブリッジ設定……………46
- 保守サービスのご案内……………118
- ホストテーブル設定……………74

【ヤ行】

- ユーザ用アカウント設定……………78
- 用語の説明……………111

【ラ行】

利用例

- インターネット接続および
ひかり電話サービスの利用例……………12
- リンク設定……………37
- ルーティング設定……………54
- レポート表示……………83

項 目		仕 様	
収容主装置		α NX typeS	α NX typeM
LAN側インタフェース	物理インタフェース	IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3u(100BASE-TX)、IEEE802.3ab (1000BASE-T)	
	伝送速度	10/100/1000 Mbps 自動認識	
	ポート数	2ポート 全ポートAUTO-MDIX機能搭載	
	接続コネクタ	RJ45 (8ピンモジュラジャック)	
	最大伝送距離	100 m	
	対応プロトコル	TCP/IP	
WAN側インタフェース	物理インタフェース	IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3u(100BASE-TX)、IEEE802.3ab (1000BASE-T)	
	伝送速度	10/100/1000 Mbps 自動認識	
	ポート数	1ポート AUTO-MDIX機能搭載	
	接続コネクタ	RJ45 (8ピンモジュラジャック)	
	最大伝送距離	100 m	
	対応プロトコル	TCP/IP、PPP、PPPoE、SIP	
	セッション数	最大6本	
VoIPインタフェース	対応プロトコル	SIP	
	通話数	最大8通話	最大12通話
	音声符号化則	JT-G.711 μ Law	

1 本商品の概要

2 設定をする前に

3 設定をする

4 運用する

5 バージョンアップする

6 主な設定例

7 参考に

■保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたします。
「保証書」は主装置等に添付されています。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無償で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要となります。

●故障の場合

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：☎ 0120-970413

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間 9:00～21:00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：☎ 0120-248995

受付時間 9:00～17:00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意ください。

●補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しております。

MEMO

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：<http://web116.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

使いかた等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先： **0120-970413**

※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間 9:00～21:00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先： **0120-248995**

受付時間 9:00～17:00

※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2010 NTTEAST・NTTWEST



本2990-4(2010.3)
NXSM-4BRUトリセツ-<1>

4398060000 | H04